

平成 23 年度
東京芸術大学大学院 課程博士学位論文

別冊添付資料

吾妻能狂言の研究

— その芸態と後世への影響 —

東京芸術大学大学院音楽研究科
博士後期課程 邦楽科長唄三味線専攻

2308909 河合佐季子

資料 目次

資料① 【吾妻能狂言番組 実写版】 {第1部 序章}	1
資料② 【吾妻能狂言の番組 翻刻版】 {第1部 序章}	25
資料③ 【『諸芸人名録』】 {第1部 第3章 第1項}	47
資料④ 【吾妻能狂言の台本】 I～VII {第1部 第3章}	49
資料⑤-1 【演目リスト表 I 曲目50音順】 {第1部 第4章}	75
資料⑤-2 【演目リスト表 II 上演回数が多い演目】 {第1部 第4章 第1節}	91
資料⑤-3 【演目リスト表 III 三味線音楽を伴った演目リスト】 {第1部 第4章} (演目50音順)	97
資料⑤-4 【演目リスト表 IV 新作の曲目】 {第1部 第4章}	103

資料① {第1部 序章}
【吾妻能狂言番組 実写版】

A1～16	法政大学野上記念能楽研究所所蔵	16枚
B1～2	鴻山文庫所蔵	2枚
C1	雑誌『寶生』 ¹ 1941年10月 所収	1枚
D	『能から歌舞伎へ』 ² 384～385頁 所収 また雑誌『郊外』 ³ 1929年5月号 (第10巻5号) 所収	1枚
E1～2	早稲田大学演劇博物館所蔵 (伊勢辰文庫張り込み帳15冊目)	2枚

以上に所蔵された吾妻能狂言の番組、または関連する資料(A16,)を実写、また複写しここに示す。

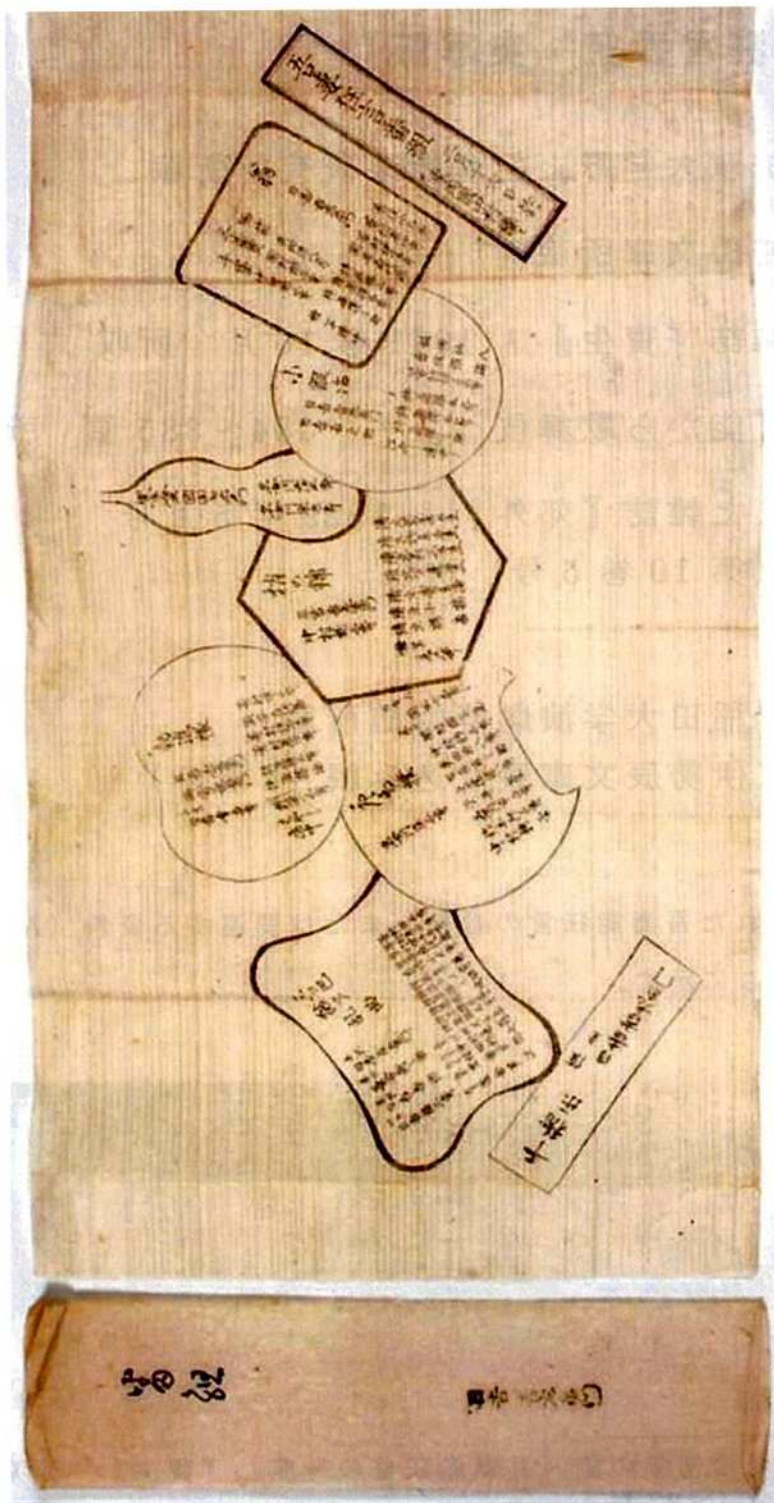
¹ 柳澤澄「明治初年の能 - 吾妻能狂言の一座」、『寶生』 東京：わんや書店、1941年、24～27頁。

² 松本亀松「明治初期の能役者の生活 - 主として当時の長唄よりの考察 -」、『能から歌舞伎へ』 東京：謡曲界、1941年、376～400頁。

³ 島田筑波「吾妻能狂言」、『郊外』 東京：1929年、39～42頁。

法政大学野上記念能楽研究所所蔵 (A 1 から A 16)

A 1



来此之日、因柳橋河内、死羊命案、
おひし追福能狂言お催し、雨共
心共、師父、馬、程、祈、也、

香 地

奏 上

赤 祀 所

小 袖 曾 我

墨 也、

舟 舟 去 度

舟 舟 未

附 祝 言

以 音 乐

以 上

桐谷城次郎
命 尾 甚 候

四月廿六日發來兩關中村様時表
正名互相

吾妻村吾妻組

高砂

日吉寺外

穴吹名太郎八郎

白井屋外

穀様

中野村
上田村
其
成

芳田屋
村
無子
成

篠原 各角屋外

中野村
其
成

隅田川

中野村
其
成

無子
成

物計 四村

中野村
其
成

船象屋

中野村
其
成

中野村
其
成

間取

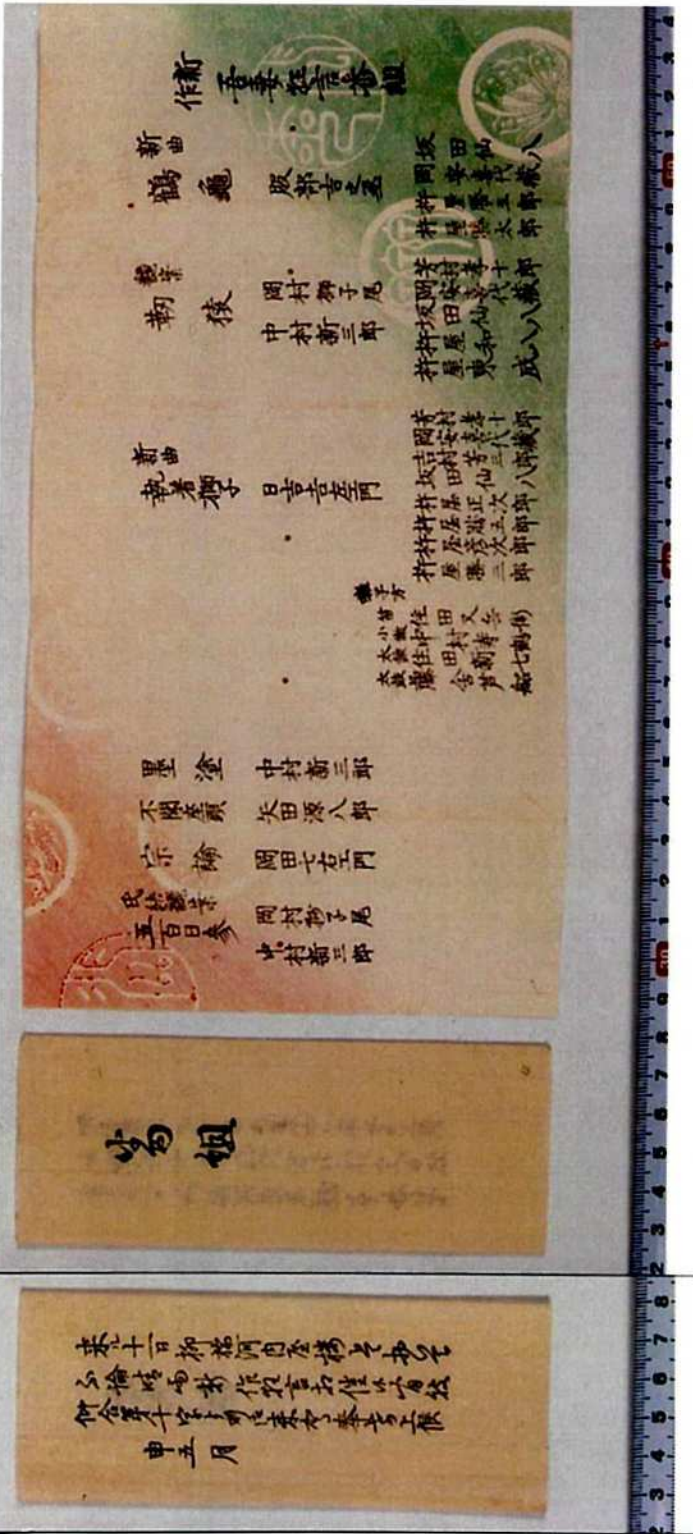
大角傳

中野村
其
成

附此音樂以上

中野村新三郎

家録



新 吾妻狂言巻組

新曲 鶴龜 阪部吉之丞 岡坂 田仙
 許屋三郎 許屋三郎 許屋三郎

新曲 執着獅子 日吉吾左門 岡村 孝十
 中村新三郎 岡村 孝十 岡村 孝十
 許屋三郎 許屋三郎 許屋三郎

新曲 墨塗 中村新三郎 岡村 孝十
 不蘭度 矢田源八郎 岡村 孝十
 宗 柳 岡田七左門 岡村 孝十

氏 五百日参 岡村 孝十
 中村新三郎 岡村 孝十
 許屋三郎 許屋三郎 許屋三郎

巻組

来十日柳橋河内登揚之抄乞
 不蘭度 矢田源八郎
 宗 柳 岡田七左門
 申五月

新吾妻狂言番組

雌子
高砂

日吉幸太郎

井端

矢田源八郎

腰折

辻水蓬山

新
観

進帳 日吉言齋門
長明力名合

吉住小三郎

芳村辰四郎

持屋勝三郎

持屋勝太郎

苗 住田又兵衛

小敷 藤倉芦松

大敷 岸田門三郎

坂田仙八

因安香代藏

持屋六三郎

持屋勝五郎

苗 菊川元治郎

中村寺鶴

森 住田新七郎

中村新三郎

因村柳之尾

寝代

鈴叩

鬼争

因田七右衛門

枕 御名 日吉言齋門

長唄連中

雌子連中

附祝言

此音楽

以上

吾妻

奉六月新撰何内居言出之於
程堂控程言各行各四序言
御名言程言奉言
中六月

新編 吾妻能狂言番組

十二月六日 日吉市 在御門宛にお心づく

十二月六日 日吉市 在御門宛にお心づく

岩船

日吉春太郎

伯養

阿村錦子尾

鞍馬天狗

日吉吉作

日吉信三郎

白頭天狗

間

日吉市太郎
日吉市三郎

歴以り

名女川庄三郎

江口

長命新之助

福王利晴

間

矢田源八郎

悪太郎

阿田七右衛門

土蜘蛛

西村雪臺

福王利晴

白系柳子

表町源中

竹屋三郎

中船

合船

中船

以生

西村雪臺

日吉吉左衛門

祝言一曲吉芝之つかひて

A7

(柳澤澄「吾妻能狂言」、『観世』1940年11月46頁にも掲載)

一月十六日 午前十時迄

吾妻能狂言番組

公羽 野村俊彦
三番叟 岡村獅子尾
千歳 日吉桂三郎

新作
八六傳
芳流 岡 日吉吉兵衛 日吉吉兵衛
長命新之助 桐谷誠次郎
福正整十郎 野村俊彦 笑倉伝五郎

新作
曾我對面 日吉吉兵衛 長命新之助
桐谷誠次郎 上田廣正
西村雪屋 梅谷長春丸

相合鳥帽子 岡田七三郎 名女川彦三郎
名女川彦三郎
録腹 狸之咲 岡田七三郎
白井栄
花見空頭 名女川彦三郎 岡村獅子尾
矢田隆八郎

附祝言
比音樂 長唄連中
三法 岸屋東成
獅子 日吉連中
以上 日吉吉兵衛 日吉吉兵衛
日吉吉兵衛

陳芳
福元天五橋陸
福富町自宅

二月十六日午前九時

吾妻能記言眷組

新作

一作 休
廊問答

新作

一作 土 懶
枕 雛子

新作

一作 狐 和合
肉 沙汰 塚

附

小 傘
祝言
比青樂

除雪 鹿前 文 委 橋 陸
福 囀 何 放 自 完

吾妻連中

長唄連中

三 許 屋 東 成

口 連 中

飄子 口 藤 舍 芦 船

口 連 中

口 吉 吉 左 衛 門

<p>官 許 吾妻能狂言興行 宮ト六月三日ヨリ五日ノ 間晴雨共午前正八時ヨリ</p>	
<p>初日 翁 三番 月曲 月宮殿 今様舞入 望月 夢中獅子舞 船辨慶 波間ノ傳 末廣狩 瓜益人 石神 以上</p>	<p>二日目 小袖會我 小鍛治 高尾 上下長愛 石橋 運繩子引後ノ傳 斯好銀 龜山伏 武惡 以上</p>
<p>四日目 殺生石白頭 橋辨慶 黑塚 老女長糸 執着獅子 今様舞狂 彌宜山伏 餘風 伯養 以上</p>	<p>五日目 翁 三番 鞆猿 烏帽子折 水滸傳 白虎ノ狂 口舞 子口 福の燈 秋樂 樂神人似</p>
<p>御見物席料 上等金百疋 中等金五十疋 下等金一疋 一上間金五百疋</p>	<p>淺草御藏前元天王橋際 舊天文原福富町角白宅ニおゑ? 興行主 日吉吉左衛門</p>
<p>三日目 禪師會我 新作 朝妻船 白柏子舞 勸進帳 延年ノ舞 葵上 梓ノ出 呼聲 小鈴 以上</p>	
<p>吾妻惣連中 長嘔 芳村 安村伊 喜辰 代四 三郎 三郎 折屋 小勝 三郎 藏 藤住中住子 田方 又兵衛 舍田村 蘆新 蘆七 箱綱七壽衛</p>	

西村和服行

十二月番

番組

午前正為時始

新作

朝妻船

千鳥

二人挽久

新作 輪回車

勸進帳

宗論

船辨慶

波間拍子

以上

吾妻連中

長唄連中

三弦

杵屋東成

舞子

藤舎芦中

連中

浅草の宮本寺大

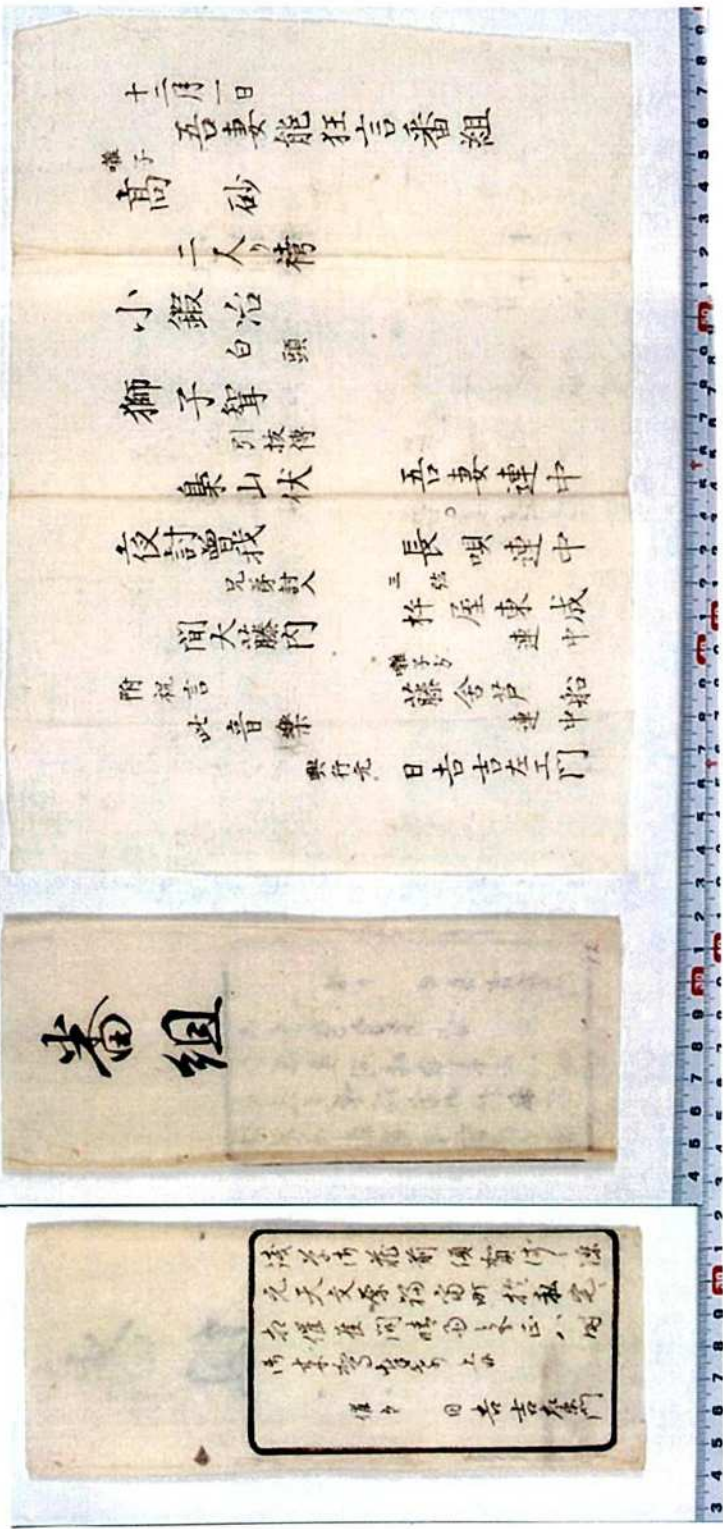
日吉吉左五門也

作主 福玉繁十郎

善美能狂言

番組

作主 福玉繁十郎



十二月二日
吾妻能狂言番組

推子
高砂

二人小橋

小鍛治
白頭

獅子掣
引拔樽

象山伏

吾妻連中

夜討討我
兄弟討

長唄連中

間大藤内

三弦 杵屋東成

附祝言
此音樂

三弦 藤舎芦船
連中

興行先 日吉吉左門

番組

淡谷内花前儀
 元天文原獨當所於教定
 名催産問時由之正八
 馬本惣書名
 催子 日吉吉左門

女二月于百初會
 在善帖云晉組 惜爾光
 于前于勝

一 翁 右秀 云 晉 巖 新 三 希
 微 太 希

一 月 宮 殿 惟 子 連 甲
 狂 言 品 華 爭

一 樣 聲 石 岳 離 子 連 甲

一 對 面 數 右 也 印 長 吳 連 甲
 竹 骨 勝 三 希
 離 子 連 甲
 藤 舍 多 記

一 开 阮 市 之 脚

一 望 月 右 在 善 帖 第十行 字 洽 紫 文
 字 洽 文 豎
 字 洽 傍 文 豎
 離 子 連 甲

一 獸 右 作 體 三 希 離 子 連 甲

以上 傑 主 日 右 善 帖 第 十 行

善 組
 日 右 善 帖 第 十 行



志乃月日抄素能狂言番組

晴雨正午前正午時後

翁 三番更

感陽宮 能連中

長明連中
唯子連中

二人大名

狂言連中

新作
双不隅田山 能連中

菅野席越 菅野石三
菅野席替 菅野斎賀

天の智象末

勸進帳

長明連中
唯子連中

棒立り

狂言連中

新作
高野山 能連中

寅本素素翁 倉本博壽

新作
記念會我 能連中

宇治紫文 宇治條文
宇治文路 宇治秩子

付入

叔田仙八 許公勝三郎
関原素夜翁 許公小三郎

大鷲吞

狂言連中

道成寺

芳打母系弟 許公勝三郎
芳打屋屋弟 許公小三郎

白柳翁

関原素夜翁 許公勝三郎
許公勝三郎

双正

離身

住田又喜翁 藤會若禰
中打寿鶴 藤會若禰

住田新七 藤會若禰

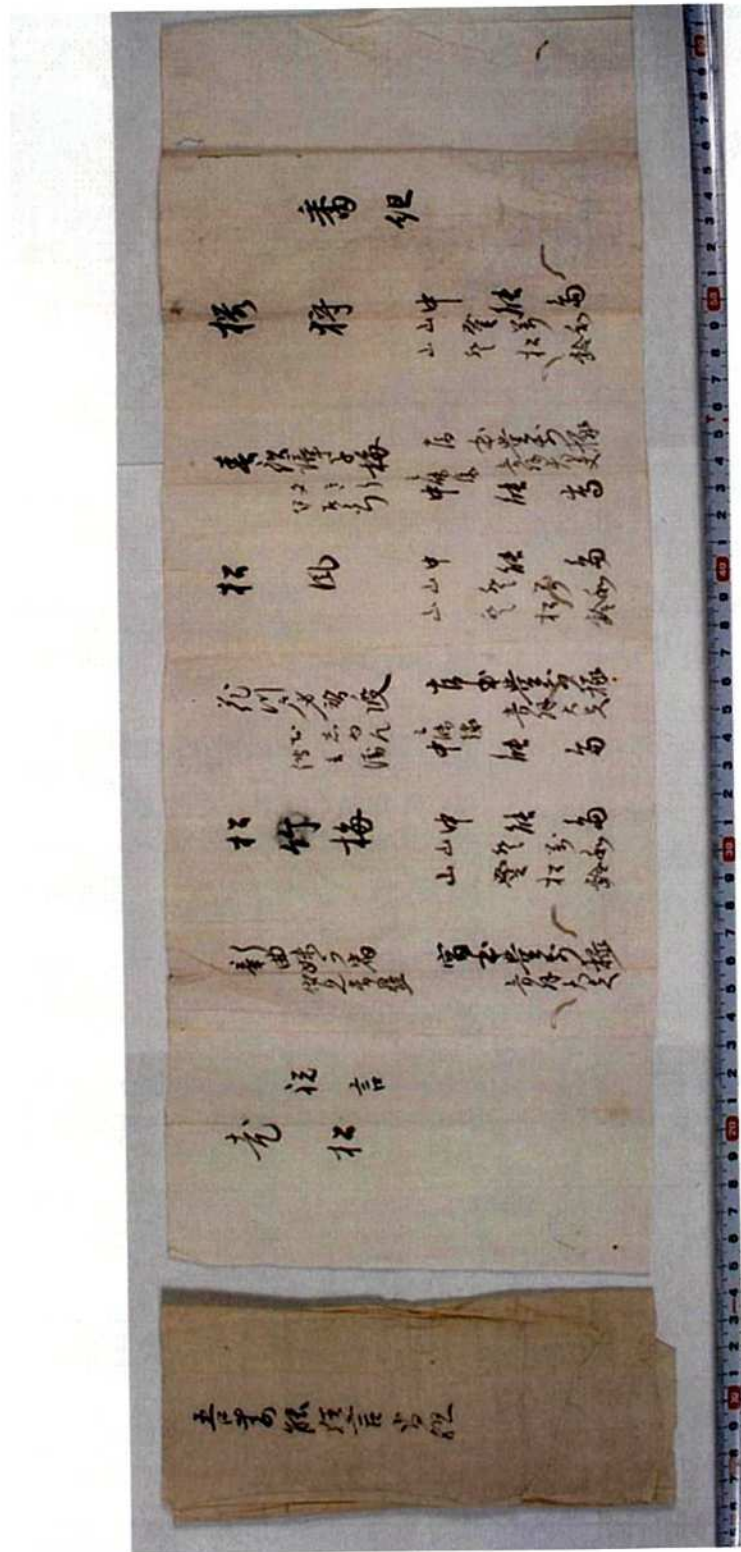
世主

日吉吉左三門



A 15

(先行研究に紹介のない、新発見の番組)



A 16

(おそろく古川氏がAの番組についてまとめたメモ書きであろう。)

言能狂言

No.	甲	○	五月五日	/	○	一月廿一日	/	神田大工
		○	六月六日	/	◎	二月十日	/	二日台
No.	乙	○	一月廿一日	/	○	二月十日	/	二日台
		○	五月十七日	/	○	二月十七日	/	赤坂
					○	三月一日	/	
					○	四月廿一日	/	赤坂
					◎	六月三日	/	赤坂
					○	七月五日	/	赤坂
					○	十二月一日	/	
					◎	十二月六日	/	赤坂
						十二月日不詳	/	

東京府代官(旧)第三〇一
電話九段(三三)156156-9
法政大学

B 1

<p>神官 吾妻敏旺巨興行 卷四十一 十日之間 晴酉壬午和正八時</p>				
<p>初日</p> <p>撫 尊 二重 尊 小幡 尊 御膳 尊 家持 尊 天行 尊 雄男 尊 侍妻 尊</p>	<p>二日目</p> <p>承 尊 稻葉 尊 柳 尊 通 尊 謝子 尊 堀 尊 河 尊</p>	<p>二日目</p> <p>越前 尊 江 尊 土 尊 通 尊 天 尊 大 尊 通 尊</p>	<p>四日目</p> <p>尾 尊 熊 尊 通 尊 乳 尊 今 尊 今 尊 物 尊</p>	<p>五日目</p> <p>撫 尊 二重 尊 安 尊 登 尊 伊 尊 今 尊 登 尊 吾 尊</p>
<p>六日目</p> <p>所 尊 擊 尊 葵 尊 三 尊 三 尊 本 尊 本 尊 本 尊</p>	<p>七日目</p> <p>倭 尊 馬 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>	<p>八日目</p> <p>赤 尊 一 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>	<p>九日目</p> <p>加 尊 二 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>	<p>十日目</p> <p>撫 尊 二重 尊 對 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>
<p>長 尊 行 尊 上 尊 下 尊</p>	<p>皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>	<p>皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>	<p>皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>	<p>皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>
<p>皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊 皇 尊</p>				

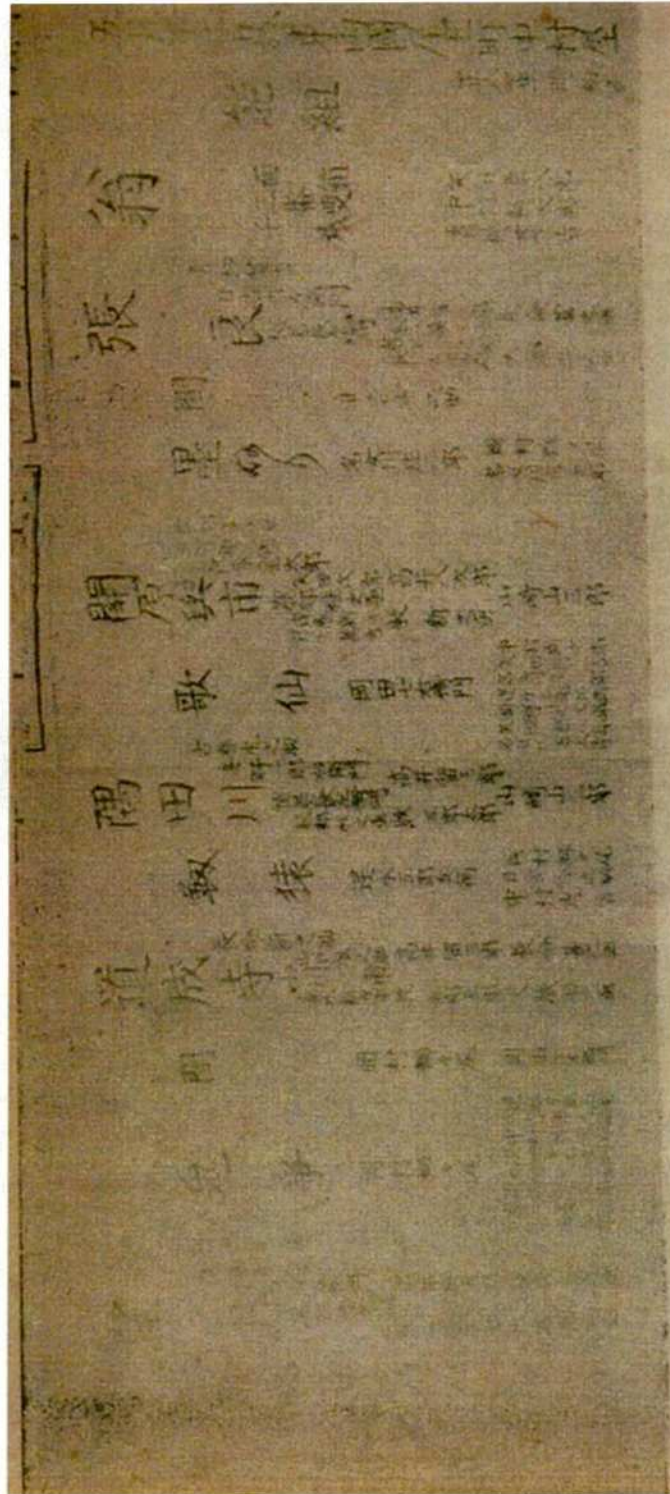
(古川久「吾妻能狂言の台本」、『宝生』1968年4月にも掲載)

七月十六日卯辰未酉辛子時全座
 目言長巻の完結し相作宮様之家に奉申す

吾妻能狂言巻祖

徳山文庫

<p>囃子 羽衣 二人袴 太刀桑葉 篠振 凡盗人 武悪 二人控久 喧嘩争極 神唱</p>	<p>日向岩八所 交田係八所 名寄市古所 園村拙子尾 名女川庄三所 高橋根八所 長唄連中 園岡七石六 高橋根八所</p>	<p>清上南書讀 清之徳言古美 清之春久古美 清之春尾古美 清之春吉清 清之根 春 清之里書所</p>
<p>四春幸古所 野村横古所 福五郎十所 高橋根八所 四中改古</p>	<p>園村拙子尾 名女川庄三所 高橋根八所 四中改古</p>	<p>園村拙子尾 中村新三所 長唄連中 許彦勝三所 はりー連中 友会芦 認</p>
<p>内見控取 三人控極 石橋 連獅子 以上</p>	<p>福五郎十所</p>	<p>園村拙子尾 中村新三所 長唄連中 許彦勝三所 はりー連中 友会芦 認</p>
	<p>位所園岡庄所十九番 催之 高橋根八所</p>	



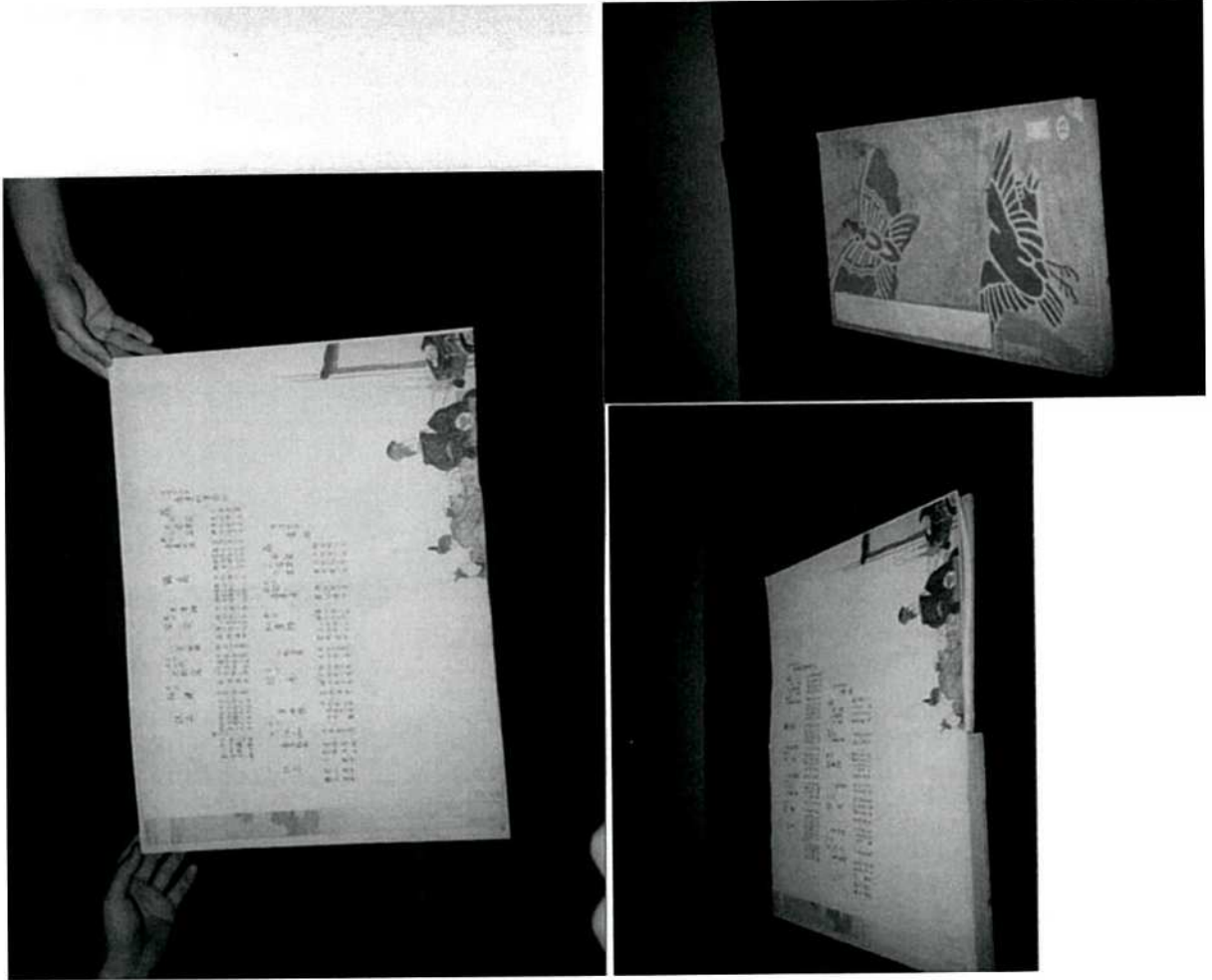
松本 亀松『能から歌舞伎へ』1941年4月 384〜385頁
 謡曲会発行 掲載
 雑誌『郊外』1929年5月号（第10巻5号） 掲載

D



早稲田大学演劇博物館所蔵 (伊勢辰文庫張り込み帳 15冊目)

E 1、2



資料② {第1部 序章}
【吾妻能狂言の番組 翻刻版】

A1～15	法政大学野上記念能楽研究所所蔵	15枚
B1～2	鴻山文庫所蔵	2枚
C1	雑誌『寶生』 ¹ 1941年10月所収	1枚
D	『能から歌舞伎へ』 ² 384～385頁 所収 また雑誌『郊外』 ³ 1929年5月号 (第10巻5号) 所収	1枚
E1～2	早稲田大学演劇博物館所蔵 (伊勢辰文庫張り込み帳15冊目)	2枚

以上、前掲の【吾妻能狂言番組 実写伴】を活字化しここに示す。

- ・但し A16、については、番組と内容が異なる為含めない。
- ・体裁は番組に近い形を求めたが、一部読み取りきれない箇所に関して“？”、全く読めない物に関しては“○”を代用して記載する事とした。

¹ 柳澤澄 前掲書
² 松本亀松 前掲書
³ 島田筑波 前掲書

吾妻能狂言番組 二月十六日 東両国中村楼

<p>翁</p> <p>日吉 吉左衛門</p> <p>吉住 小三郎</p> <p>芳村 辰四郎</p> <p>芳村 伊千太郎</p> <p>岡安 喜代藏</p> <p>面箱</p> <p>矢田 源八郎</p> <p>三番叟</p> <p>岡村 獅子尾</p> <p>千歳</p> <p>中村 新三郎</p> <p>囃子連中</p>	<p>小鍛冶</p> <p>日吉 吉左衛門</p> <p>坂田 仙八</p> <p>日吉 吉之助</p> <p>吉住 作治</p> <p>芳村 伊千太郎</p> <p>杵屋 勝五郎</p> <p>杵屋 勝太郎</p> <p>杵屋 勝之助</p> <p>はやし連中</p>	<p>墨塗</p> <p>岡田 七衛門</p> <p>名女川 庄三郎</p> <p>名女川 米太郎</p>	<p>梢の錦</p> <p>日吉 吉左衛門</p> <p>清元 菊寿太夫</p> <p>清元 初音太夫</p> <p>清元 喜久太夫</p> <p>清元 富寿太夫</p> <p>清元 寿兵衛</p> <p>清元 小梅</p> <p>清元 梅吉</p> <p>囃子連中</p>
---	---	---	---

<p>勸進帳</p> <p>日吉 吉左衛門</p> <p>芳村 伊三郎</p> <p>梅舎 長左衛門</p> <p>岡安 喜代藏</p> <p>子方</p> <p>芳村 伊千太郎</p> <p>日吉 幸太郎</p> <p>芳村 辰四郎</p> <p>杵屋 勝之助</p> <p>杵屋 勝治</p> <p>上てうし(上調子)</p> <p>杵屋 小三郎</p> <p>はやし連中</p>	<p>唐相撲</p> <p>名女川 庄三郎</p> <p>日本人</p> <p>岡田 七右衛門</p> <p>通事</p> <p>岡田 獅子尾</p> <p>中村 新三郎</p> <p>矢田 源八郎</p> <p>日吉 市之助</p> <p>高橋 銀八郎</p> <p>平井 栄</p> <p>名女川 市太郎</p> <p>鈴木 卯三郎</p> <p>中村 耕平</p>
--	---

<p>三ツ巴</p> <p>獅子</p> <p>乱曲</p> <p>白頭</p> <p>日吉吉左衛門</p> <p>赤頭</p> <p>長命 新之助</p> <p>赤頭</p> <p>日吉 吉作</p> <p>ワキ</p> <p>日吉 植三郎</p> <p>芳村 伊三郎</p> <p>芳村 辰四郎</p> <p>芳村 伊千太郎</p> <p>岡安 喜代藏</p> <p>吉住 小三郎</p> <p>杵屋 東藏</p> <p>杵屋 小三郎</p> <p>杵屋 勝之助</p> <p>杵屋 勝次</p> <p>杵屋 勝太郎</p> <p>杵屋 勝五郎</p>	<p>千秋楽</p> <p>催主</p> <p>日吉 吉左衛門</p> <p>ふえ</p> <p>住田 又兵衛</p> <p>小つつみ</p> <p>中村 寿鶴</p> <p>大つつみ</p> <p>住田 新七</p> <p>たいこ</p> <p>藤舎 芦綱</p> <p>小つつみ</p> <p>藤舎 芦船</p>
--	--

来る三月六両国柳橋河内屋半次郎宅に
おいて追福狂言を催す間晴雨共
正五つ時より御光駕のほど称さしる(？)
番組

葵上

素襖落

小袖曾我

惣八

墨塗り

船弁慶

前後

替装束

附祝言

音楽

以上

桐谷鉞次郎

命尾世咲

四月廿六日於東兩國中村榎晴雨共正九字相始
吾妻能狂言番組

囃子 高砂	日吉幸太郎	二人り大名 矢田 源八郎	高橋 銀八郎 白井 栄	靱猿	岡村 獅子尾 中村 新三郎 日吉 市之助 上田 熊次	坂田 仙八 岡安 喜代藏 芳村 千太郎	杵屋 勝太郎 杵屋 勝之助 杵屋 勝次	囃子連中	鎌腹	名女川 庄三郎	岡田 七右衛門 矢田 源八郎	膏薬練	咲寿 栄吉 中村 和平	日吉 幸太郎 日吉 吉左馬 新作 隅田川	岡村 獅子尾 名女川 庄三郎 日吉 桂三郎 岡田 七右衛門 中村 新三郎 中村 幸平	清元 菊寿太夫 清元 初寿太夫 清元 喜久太夫 清元 富寿太夫	清元 彦次郎 清元 小梅 清元 梅吉	囃子連中
----------	-------	-----------------	----------------	----	-------------------------------------	---------------------------	---------------------------	------	----	---------	-------------------	-----	----------------	-------------------------------	---	--	--------------------------	------

釣針	中村 新三郎 岡田 七右衛門	名女川 庄三郎 矢田 源八郎 勝見 梅朝 日吉 市之助 白井 栄 高橋 銀八郎	日吉 幸太郎 日吉 吉左衛門 船弁慶 替ノ傳	中村 幸平 中村 新三郎 上田 玄二郎 勝元 桜朝	吉住 小三郎 芳村 辰四郎 吉住 作二	間舟唄 友綱ノ傳	岡村 獅子尾	上調子 杵屋小三郎 杵屋 勝太郎 杵屋 勝三郎	笛 住田 又兵衛 小鼓 中村 寿鶴 大鼓 住田 新七 太鼓 藤舍 芦綱 小鼓 藤舍 芦船	附祝言 此音楽 以上	催主 中村 新三郎
----	-------------------	--	---------------------------------	------------------------------------	---------------------------	-------------	--------	-------------------------------	--	------------------	--------------

来る十一日柳橋河内屋楼上において
 不論晴雨新作狂言相催候被
 仰合第十字よりご来駕奉希上候 申五月
 新作 吾妻狂言番組

新曲 服部 吉之丞
 鶴亀

坂田 仙八
 岡安 喜代蔵
 杵屋 勝五郎
 杵屋 勝太郎

翻案 岡村 獅子尾
 鞆猿 中村 新三郎

芳村 孝十郎
 岡安 喜代蔵
 坂田 仙八
 杵屋 和人
 杵屋 東成

新曲 日吉 吉左工門
 執着獅子

芳村 孝十郎
 岡安 喜代蔵
 吉村 芳三郎
 坂田 仙八
 杵屋 正次郎
 杵屋 勝五郎
 杵屋 彦次郎
 杵屋 勝三郎
 囃子方
 笛 住田 又兵衛
 小鼓 中村 寿鶴
 大鼓 住田 新七
 太鼓 藤舎 呂船

墨塗	中村 新三郎
不聞座頭	矢田 源八郎
宗論	岡田 七右工門
氏結翻案 五百日参	岡村 獅子尾 中村 新三郎

寝代	<p>来る六日河内屋方柳橋河内屋方において 新作狂言相催候間被仰合正四つ時より 御来賀之程奉希上候 申六月</p> <p>新作 吾妻狂言番組</p>	<p>囃子 高砂 日吉 幸太郎</p>	<p>井礮 矢田 源八郎</p>	<p>腰祈 速水 蓬山</p>	<p>新作 勸進帳 日吉 吉左衛門 長唄カケ合</p>	<p>吉住 小三郎 芳村 辰四郎 杵屋 勝三郎 杵屋 勝太郎 住田 又兵衛 又兵衛 菅船 藤舎 菅船 岸田 門三郎 大鼓 門三郎</p>	<p>坂田 仙八 岡安 喜代蔵</p>	<p>杵屋 六三郎 杵屋 勝五郎</p>	<p>笛 菊川 元治郎 小鼓 中村 寿鶴 大鼓 住田 新七</p>
	<p>中村 新三郎</p>								

鉢叩	岡村 獅子尾
鬼争	岡田 七右衛門
枕獅子	日吉 吉左衛門
	長唄連中 囃子連中
付祝言	
此音楽	
以上	

世の中をしのふずさみの
舞の袖なれぬさま

をもあはれとはみよ

新作 吾妻能狂言番組

十二月六日浅草天王橋

日吉吉左衛門宅において

正九時始め

はやし

岩船

伯養

日吉吉作

鞍馬天狗

白頭天狗そろひ

間 (普通の間狂言)

墨ぬり

長命新之助

江口

間

悪太郎

西村 雪台

土蜘蛛

白系拍子

日吉 幸太郎

岡村 獅子尾

日吉 佳三郎

日吉 市太郎

日吉 市三郎

名女川 庄三郎

福王 利晴

矢田 源八郎

岡田 七右衛門

福王 利晴

長唄連中

さみせん 杵屋 勝三郎

れん中

はやし 藤舎 芦船

れん中

発行主 西村 雪台

日吉 吉左衛門

祝言一曲吉左衛門かなで申候

以上

一月二六日 吾妻能狂言番組 午前正八時始	
翁	野村 俊太郎 岡村 獅子尾 日吉 桂三郎
新作 八犬伝 芳流閣	日吉 吉左衛門 長命 新之助 福王 繁十郎
新作 曾我對面	日吉 吉左衛門 桐谷 鉞次郎 西村 雪臺 梅谷 長左衛門
相合烏帽子	名女川 庄三郎 名女川 市太郎
鎌腹	墨田 七右衛門 白井 榮
花見座頭	岡村 獅子尾 矢田 源八郎
附祝言 此音楽 以上	長唄連中 三弦 杵屋東成 同 連中 囃子 藤舎蘆船 同 連中
浅草元天王橋 新富町自宅 において	日吉 吉左衛門

二月十六日午前九時より
吾妻能狂言番組

新作

一休

新作 廓問答

土蜘蛛

新作

枕獅子

和合

囃子 藤舎簾船

狐塚

同 連中

内沙汰

小傘

附祝言

浅草御蔵前元天王橋際
福富町於自宅

日吉 吉左衛門

官 許 吾妻能狂言興行
 当ル六月三日ヨリ五日ノ
 間晴雨共午前正八時ヨリ

<p>翁 初日 三番叟 新曲 月宮殿 今様舞入 新作 望月 夢中獅子舞 船弁慶 波間ノ傳 末広狩 瓜盗人 石神 以上</p>	<p>二日目 小袖曾我 小鍛冶 新作 高尾 上下長愛 石橋 連獅子引被ノ傳 斯好聲 苞山伏 武悪 以上</p>	<p>三日目 禪師曾我 新作 朝妻船 白拍子舞 勅進帳 延年ノ舞 新作 葵上 梓ノ出 呼声 釣狐 小傘 以上</p>
<p>四日目 殺生石 白頭 新作 橋弁慶 黒塚 老女長糸 新作 執着獅子 今様蝶狂 称宜山伏 鎌腹 伯養 以上</p>	<p>五日目 翁 三番叟 靱猿 新作 烏帽子折 新作 水波伝 白虎ノ狂 武松 口真似 子盗人 福の神 千秋楽</p>	<p>吾妻惣連中 長唄 吉村 伊三郎 芳村 辰四郎 岡安 喜代蔵 坂田 仙八 三弦 杵屋 勝三郎 杵屋 小三郎 杵屋 勝次 嚙子方 住田 又兵衛 中村 鶴寿 住田 新七 藤舍 蘆綱 藤舍 蘆船</p>
<p>御見物席料 上等 金百足 中等 金五十足 下等 金一朱 浅草御蔵前元天王橋際 旧天文原福富町角自宅ニおいて 興行主 日吉吉左衛門</p>		

西村組版行

官 元祖
許 吾妻能狂言興行

富ル二月十日ヨリ
晴雨共午前正八時始

A 10

<p>翁 千歳 中村新太郎 日吉吉左衛門 三番叟 岡田七右衛門</p>	<p>清元菊寿大夫 清元初音大夫 清元喜久大夫 老松 狂言連中 清元 寿兵衛</p>	<p>鶴亀 能連中 坂田 仙八 坂田 金太 岡安喜代藏 杵屋 東藏 杵屋 十造 杵屋 勝次</p>	<p>長唄 連中 能楽連中 囃子 連中 清元 梅吉 清元 里寿郎</p>	<p>新作 常磐津松尾大夫 常磐津 秀大夫 常磐津 駒大夫 宗清 能連中 常磐津文字兵衛</p>	<p>未廣狩 狂言 連中 仁王 狂言 連中 以上</p>	<p>新作 能連中 佐々木市藏 常磐津 八百八</p>	<p>此外能狂言とも 日毎二差替 奉入御覽二候</p>	<p>新作 葵上 能連中 山津 宗賀 三曲入 平岡 東子</p>	<p>御見物両御老人前 上等 金貳拾五錢 中等 金拾貳錢五厘 下等 金六錢貳厘五毛</p>
<p>小鍛冶 能連中 囃子 連中</p>	<p>坂田 仙八 坂田 金八 岡安喜代藏 日吉 吉左衛門 道成寺 福王 繁十郎</p>	<p>新作 高尾 能連中 同連中 船ノ場 名見崎得寿齋</p>	<p>坂田 仙八 坂田 金八 岡安喜代藏 日吉 吉左衛門 道成寺 福王 繁十郎</p>	<p>新作 望月 能連中 常磐津 九藏 常磐津 八百松 常磐津 芝喜作</p>	<p>木六駄 狂言連中 以上</p>	<p>新作 大江山 能連中 菅野 不三 菅野 奈賀 菅野 吉乃</p>	<p>御見物両御老人前 上等 金貳拾五錢 中等 金拾貳錢五厘 下等 金六錢貳厘五毛</p>	<p>御見物両御老人前 上等 金貳拾五錢 中等 金拾貳錢五厘 下等 金六錢貳厘五毛</p>	<p>御見物両御老人前 上等 金貳拾五錢 中等 金拾貳錢五厘 下等 金六錢貳厘五毛</p>
<p>新作 感陽宮 能連中 囃子連中</p>	<p>坂田 仙八 坂田 金太 岡安喜代藏</p>	<p>新作 七騎落 能連中 宇治 倭文 宇治 紫京 宇治 鉄子 宇治 百子</p>	<p>石神 狂言連中 泣尼 狂言連中 以上 囃子方 住田 新七 藤舎 黛照 藤舎 黛調 住田 又兵衛 中村 寿鶴 藤舎 黛船</p>	<p>新作 隅田川 能連中 乗合船 狂言連中 清元 彦次郎 清元 梅次郎 清元 徳次郎</p>	<p>石神 狂言連中 泣尼 狂言連中 以上 囃子方 住田 新七 藤舎 黛照 藤舎 黛調 住田 又兵衛 中村 寿鶴 藤舎 黛船</p>	<p>新作 關寺小町能連中 同連中 富本 實珠翁 名見崎得寿齋</p>	<p>浅草御藏前元天王橋 元天文原福富町角 日吉吉左衛門</p>	<p>新作 關寺小町能連中 同連中 富本 實珠翁 名見崎得寿齋</p>	<p>浅草御藏前元天王橋 元天文原福富町角 日吉吉左衛門</p>

十一月廿六日
吾妻能狂言 番組
午前正九時始

新作

朝妻船

千鳥

二人椀久

新作

輪回車

勸進帳

宗論

船弁慶

浪間拍子

以上

吾妻能狂言連中

○

長唄連中

三弦

杵屋 東成

連中

囃子

藤舎 簾船

連中

浅草くらまえ すがばし

日吉 吉左衛門宅

催主 福王 繁十郎

十二月一日
吾妻能狂言番組

囃子(舞囃子)

高砂

二人り袴

小鍛冶

白頭

獅子舞

引拔傳

鼻山伏

夜討曾我

兄弟討入

○
長唄連中

吾妻連中

間 大藤内

三弦

杵屋 東成

連中

附祝言

囃子

此音楽

藤舎 簾船

連中

亥二月二十日初会
 吾妻能狂言番組
 晴雨午前 正十時始

一、翁

吉左衛門

三番叟

新三郎

千歳

俊太郎

一、月宮殿

一弦琴入

長唄連中
 囃子連中

一、猿聲

新曲

七右衛門

狂言惣連中
 囃子連中

一、對面曾我

吉之丞
 吉次郎

長左衛門

長唄連中
 杵屋勝三郎
 囃子連中
 藤舎蘆船

一、井杭

市之助

一新作

一、望月

幸太郎
 吉左衛門

繁十郎

宇治紫文
 宇治文路
 宇治俊文
 宇治 秩

一、融

吉作

植三郎

囃子連中

以上

催主

淺草元天文原

日吉 吉左衛門

亥五月十一日

吾妻能狂言番組

晴雨共午前正八時頃始メ

翁

三番叟

感陽宮

能連中

二人大名

狂言連中

新作

能連中

双子隅田川

天狗替衣

菅野 序遊
菅野 (序?)

菅野不三
菅野奈賀

勸進帳

棒志ばり

狂言連中

長唄連中
囃子連中

新作

能連流

高野山

富本宝珠翁
富本音羽大夫

名見崎得寿齋

新作

能連中

記念曾我

討入

宇治紫文
宇治文路
坂田仙八

宇治倭文
宇治秩子

岡安喜代藏
芳村辰四郎

杵屋勝三郎
杵屋小三郎

大般若

狂言連中

能連中

道成寺

白拍子舞

以上

囃子方

催主

芳村伊三郎
芳村辰四郎
岡安喜代藏

杵屋勝三郎
杵屋小三郎
杵屋勝次
杵屋勝太郎

住田又兵衛
中村寿鶴
住田新七

藤舍芦綱
藤舍芦律
藤舍芦船

日吉 吉左衛門

番組

桜狩

中能島
山登萬和
山登松齡

春夜障子梅

富本豊前掾

夕きり
伊左衛門

音羽大夫
上調子
中能島

松風

中能島
山登萬和
山登松齡

花川戸身替ノ段

富本豊前掾

お志ゆん
伝兵衛

音羽大夫
上調子
中能島

松竹梅

中能島

山登萬和
山登松齡

新曲妹ヶ宿

富本豊前掾

伏見常盤

音羽大夫

老松

祝言

官許 吾妻能狂言興行

来ル四月十一日ヨリ十日間ノ間
晴雨共午正前八時始メ

B 1

<p>初日 翁 吉左衛門 三番叟 獅子尾 吉次郎 小鍛冶 桂三郎 惣三郎 勅進帳 繁十郎 新之助 紅葉狩 長右衛門 二人袴 七右衛門 鏡男 源八郎 伊勢參宮 庄三郎</p>	<p>二日目 俊太郎 藤戸 桂三郎 仙次郎 桶弁慶 獅子尾 鞆猿 桂三郎 吉左衛門 道成寺 繁十郎 今様舞入 附子 市三郎 繩綱 七衛門 首引 庄三郎</p>	<p>三日目 吉次郎 熊坂 繁十郎 甚作 江口 長左衛門 俊太郎 土蜘蛛 繁十郎 新之助 道成寺 鉞次郎 今様舞入 二人大名 栄 唐相撲 庄三郎 大般若 獅子尾 道成寺間 七右衛門</p>	<p>四日目 吉次郎 善界 廣平 庄三郎 獅子聲 獅子尾 鉞次郎 道成寺 繁十郎 俊太郎 乱 桂三郎 五段返し 今參 獅子尾 三人片輪 桂之助 釣針 七衛門</p>	<p>五日目 翁 俊太郎 三番叟 七右衛門 鉞次郎 安達原 繁十郎 長左衛門 安宅 繁十郎 不動ノ傳 吉次郎 望月 新之助 千鳥 源八郎 悪太郎 庄三郎 墨塗 獅子尾</p>
<p>六日目 鉞次郎 繁十郎 新之助 鞍馬天狗 桂三郎 吉次郎 葵上 繁十郎 吉左衛門 三ツ巴 鉞次郎 獅子乱曲 吉次郎 ワキ 長右衛門 萩大名 庄三郎 木六駄 獅子尾 鬼争(瓦) 七右衛門</p>	<p>七日目 新之助 繁十郎 張良 俊太郎 烏帽子折 廣平 鉞次郎 草子洗 長左衛門 甚作 船弁慶 俊太郎 鼻取角力 源八郎 空腕 七右衛門 釣狐 庄三郎 船弁慶間 獅子尾</p>	<p>八日目 吉次郎 桂三郎 春日龍神 新之助 一休 繁十郎 俊太郎 夜討曾我 甚作 鉞次郎 石橋 繁十郎 連獅子 太刀奪 庄三郎 花子 七右衛門 惣八 獅子尾</p>	<p>九日目 俊太郎 吉次郎 加茂 新之助 三輪 桂三郎 吉次郎 正尊 繁十郎 起請文 鉞次郎 羅生門 長右衛門 止動方角 泣尼 獅子尾 花見座頭 庄三郎</p>	<p>十日目 翁 新之助 三番叟 庄三郎 鉞次郎 対面曾我 長右衛門 俊太郎 吉左衛門 角田川 繁十郎 乗合船 幸太郎 猩々 吉次郎 兒鐘流馬 源八郎 業平餅 七右衛門 福神 獅子尾 千秋楽</p>

<p>長唄連中 軒屋 勝三郎 藤舎 芦船</p>	<p>囃子連中</p>
<p>御見物料 上等 金百足 中等 金五 下等 一朱</p>	
<p>浅草御藏前須賀橋際 元天文原福富町角自宅において</p>	
<p>興行主 日吉 吉左衛門</p>	

七月十六日???午前正十時 浅草御藏前元天文原福富町
日吉吉左衛門宅に於いて相催候間 御見物御出車之程奉願上候
吾妻能狂言

嚙子
羽衣

日向 吉次郎

二人袴
太刀奪

矢田 源八郎

鎌腹

名女川市太郎

瓜盗人
武悪

岡村 獅子尾
名女川庄三郎

二人腕久

高橋 銀八郎

布施無経
神鳴

岡田 七右衛門
高橋 銀八郎

日吉幸太郎

清元 菊寿太夫

隅田川

野村俊太郎

福王繁十郎

名女川庄三郎

清元 初寿太夫

乗合船

高橋銀八郎
田中 正吉

清元 喜久太夫
清元 栄寿太夫
清元 寿兵衛
清元 梅吉

月見座頭
三人片輪

清元 里寿郎
岡村 獅子尾
中村 新三郎

日吉吉之助

長 唄 連 中

日吉吉左衛門

杵屋 勝三郎

石橋
連獅子

福王繁十郎

はやし連中
藤舎 岩船

以上

住所 関口崖町十九番地

催主

高橋 銀八郎

五月十二日 於東國尾上町調中村屋
能番 正六ツ半時始メ

翁 面箱 矢田源八郎
三番叟 中村新太郎
千歳 青柳貫吉

青柳 貫吉 高井 留三郎 長命 甚之丞
日吉 吉左衛門 牧 五郎太郎
張良 梅谷 長左衛門 藤井 金之助 大藏 助之丞
牧 五郎太郎

間 日吉 市之助
墨ぬり 名女川 庄三郎
岡村 獅子尾
名女川 市太郎

服部 興之助
日吉 錦三郎
長命 金太郎
関原 与市 矢田 次郎 高井 八次郎
服部 桂之丞 山崎 山三郎
古春 新吉 牧 新之助
井上 萬吉

歌 仙 岡田 七右衛門

中村 新太郎
矢田 彦吉
名女川庄三郎
逆水 五郎兵衛
岡野 定次郎
矢田 源八郎
名女川 市太郎

古春 虎之助

隅田川 海野 一郎左衛門 高井 留三郎
梅若 長左衛門 山崎 山三郎
牧 五郎太郎

鞆 猿 服部 桂之丞 岡村 獅子尾
逆水 五郎兵衛 日吉 市之助
中村 虎吉

長命 新之助
道成寺 小川 一甫 山口 辰之助 高井 留之助 長命 甚之丞
真木 新次郎 牧 五郎太郎 大藏 助之丞

間 岡村 獅子尾 岡田 七右衛門

鬼争 岡村 獅子尾

日吉 幸太郎 逆水 五郎兵衛
古春 新三郎 日吉 市之助
中村 新太郎
岡田 七右衛門
矢田 源八郎
岡野 定次郎
岡 愛三
名女川 庄三郎

望月 服部 桂之丞 高井 留三郎 長命 甚之丞
藤井 金之助 大藏 助之丞

附祝言 千秋楽

以上 入狂言 釣 狐 名女川 庄三郎

官許 起立 吾妻狂言

D

(初日)

翁 日吉 吉左衛門
 面箱 矢田 源八郎 児鐘流馬 中村 新三郎
 三番叟 岡村 獅子長 伯養 逆水 五郎兵衛
 千歳 中村 新三郎 業平餅 名女川庄三郎
 鶴亀 長命 新之助 仁王 岡田 七右衛門
 連獅子 日吉 吉左衛門

(二日目)

翁 長命 新之助
 面箱 日吉 市之助 二人袴 名女川庄三郎
 三番叟 中村 新三郎 宗論 中村 新三郎
 千歳 岡田七郎右衛門 釣狐 岡田七郎右衛門
 鞆猿 岡村 獅子尾 鬼争 逆水 五郎兵衛
 船弁慶 日吉 吉之助

(三日目)

翁 日吉 吉之助
 面箱 鈴木 卯三郎 墨塗 名女川庄三郎
 三番叟 岡田七郎右衛門 武恵 逆水 五郎兵衛
 千歳 名女川庄三郎 茶嗅(?)座頭 岡村 獅子尾
 時雨西行 日吉 吉作 泣聲 中村 新三郎
 勸進帳 日吉 吉左衛門

(四日目)

翁 日吉 吉作
 面箱 日吉 市三郎 萩大名 岡田 七左衛門
 三番叟 名女川庄三郎 鈍太郎 名女川庄三郎
 千歳 中村 新三郎 小傘 岡村 獅子尾
 ○○○ 日吉 吉左衛門 太刀舞 矢田 源八郎
 安達原 日吉 吉之助

(五日目)

翁 日吉 吉左衛門
 面箱 矢田 源八郎 骨皮 中村 新三郎
 三番叟 逆水 五郎兵衛 犬山伏 岡田 七右衛門
 千歳 日吉 幸太郎 釣針 名女川庄三郎
 夜討曾我 日吉 吉之助 三人片輪 岡村 獅子尾
 七人狸々(能) 日吉 吉左衛門 長命 新之助
 日吉 吉作

追々番組差出し申候 以上

日吉 桂三郎

長唄 吉住 小三郎

長唄 坂田 仙八

笛 住田 又兵衛

三絃 芳村 辰四郎

三絃 岡安喜代蔵

小鼓 中村 寿鶴

三絃 杵屋 勝三郎

三絃 杵屋勝五郎

大鼓 住田 新七

常磐津 吾妻太夫

常磐津 喜勢太夫

太鼓 藤舎 蘆船

常磐津 小文字太夫

同 若佐太夫

三味線 常磐津 文字兵衛

常磐津 志津太夫

同 鳴門太夫

上調子 常磐津八十松

常磐津 秀太夫

同 入江太夫

上調子 同 八百八

常磐津 歌妻太夫

常磐津 喜勢太夫

上調子 同 芝喜作

清元 千代太夫

清元 栄喜太夫

上調子 常磐津 松蔵

清元 菊寿太夫

清元 都家太夫

三味線 清元 寿兵衛

清元 延寿太夫

清元 喜佐太夫

上調子 清元 梅吉

清元 善太夫

同 出家内太夫

上調子 清元 梅吉

清元 家佐太夫

同 鳴喜太夫

上調子 同 栄三

清元 初音太夫

同 喜久太夫

上調子 同 幾吉

此旅吾妻狂言新作もの取仕組常磐津清元長唄囃子掛合ニ而引拔、大道具大仕掛奉御覧入候

翁三番叟

長唄はやし惣出ニテ相勤申候

望月

宿やのあだ討

常磐津連中

木ずへの錦

高尾の古言

清元連中

連獅子

ボタンのくるゐ

長唄連中

土ぐも

糸のあやとり

常磐津連中

松風

はまのうら波

清元連中

安宅

かんじん帳

長唄連中

E 1

十月十六日

吾妻狂言番組

翁	面箱	日吉 吉左衛門
	三番叟	矢田 源八郎
	千歳	岡村 獅子尾
新作		野村 俊太郎
吾妻風流		名女川庄三郎
		吉住 小三郎
		芳村 辰四郎
		杵屋 勝三郎
		杵屋 小三郎
鶴亀		日向 吉次郎
		坂田 仙八
		岡安 喜代蔵
		杵屋 勝五郎
		杵屋 勝治
末広狩		中村 新三郎
		桐谷 鉞次郎
新作		日吉 幸太郎
安宅		ワキ 福王 繁十郎
		長唄 連 中
八笑人噺競		岡田七右衛門
新作		日吉 吉左衛門
三巴		長命 新之助
		日吉 吉作

太鼓ノ石橋

ワキ日吉 桂三郎
長唄連中

新作	柱建	日吉 吉左衛門
		芳村 伊三郎
		岡安 喜代蔵
		芳村 辰四郎
		杵屋 勝三郎
		杵屋 勝太郎
		杵屋 小三郎
	囃子方	住田 又兵衛
		中村 寿鶴
		住田 新七
		藤舎 芦船
以上		

E 2

十月廿一日

番組

翁	面箱	桐谷 鉞次郎
	三番叟	日吉 市之丞
	千歳	名女川庄三郎
新作		長命 新之助
板開		岡村 獅子尾
	吾妻の寿	荻江 連 中
新作		長命 新之助
紅葉狩		ワキ 梅谷 長左衛門
		日吉 桂三郎
		上田 度平
		菅野 連 中
止動方角		岡田 七右衛門
		矢田 源八郎
新作		野村 俊太郎
鉢木		日向 吉次郎
		ワキ 福王 繁十郎
		菅野 連 中
業平餅		中村 新三郎
		高橋 銀八郎
		白井 榮
新作		日吉 吉左衛門
大江山		菅野 序遊
童子対面		菅野 不三
		同連 中
以上		荻江 連 中
		囃子 連 中

資料③ [第1部 第3章 第1項]
 【『諸芸人名録』】

諸藝頭取 世語方 人名	第五大區二小區 茂原清元時世並春地 能狂言師 觀世鏡之助	第二大區六小區 芝原三丁目五番地 能狂言師 松剛 唯一	第一大區四小區 永田町一丁目廿番地 能狂言師 吉古左衛門	第一大區四小區 三原新地 能狂言師 中地高松聲	第十大區一小區 谷中町四十番地 能狂言師 福住潤賀	七番地 井上竹光
-------------------	------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	-------------

○ 吾妻能狂言師	淺竹堂日吉吉左衛門 本妻原	下谷 福王繁十郎	本野 桐谷鏡次郎	本野 野村樸太郎	富士見丁 日向吉次郎	浅住竹 長命新之助	下谷竹丁 清甚 伴
----------	------------------	----------	----------	----------	------------	-----------	-----------

狂言方	深川 岡村獅々尾	中野 岡田七右衛門	本野 中村新三郎	本野 森女川保三郎	神田 矢田源八郎	本野 名女川市太郎	浅口堂丁 高橋銀八郎
-----	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	------------

資料④ {第1部 第3章}

【吾妻能狂言の台本】 I ~ VII

- ・ 資料④-1【吾妻能狂言の台本 I 〈隅田川〉】
- ・ 資料④-2【吾妻能狂言の台本 II 〈吾妻風流〉】
- ・ 資料④-3【吾妻能狂言の台本 III 〈松本風流〉】
- ・ 資料④-4【吾妻能狂言の台本 IV
〈女鉢木 最明寺書抜〉】
- ・ 資料④-5【吾妻能狂言の台本 V 〈うつぼ猿〉】
- ・ 資料④-6【吾妻能狂言の台本 VI 〈二階堂書抜〉】
- ・ 資料④-7【吾妻能狂言の台本 VII 〈松の春〉】

〈 凡 例 〉

・ これらは全て法政大学野上記念能楽研究所所蔵の文献を写真撮影したものである。

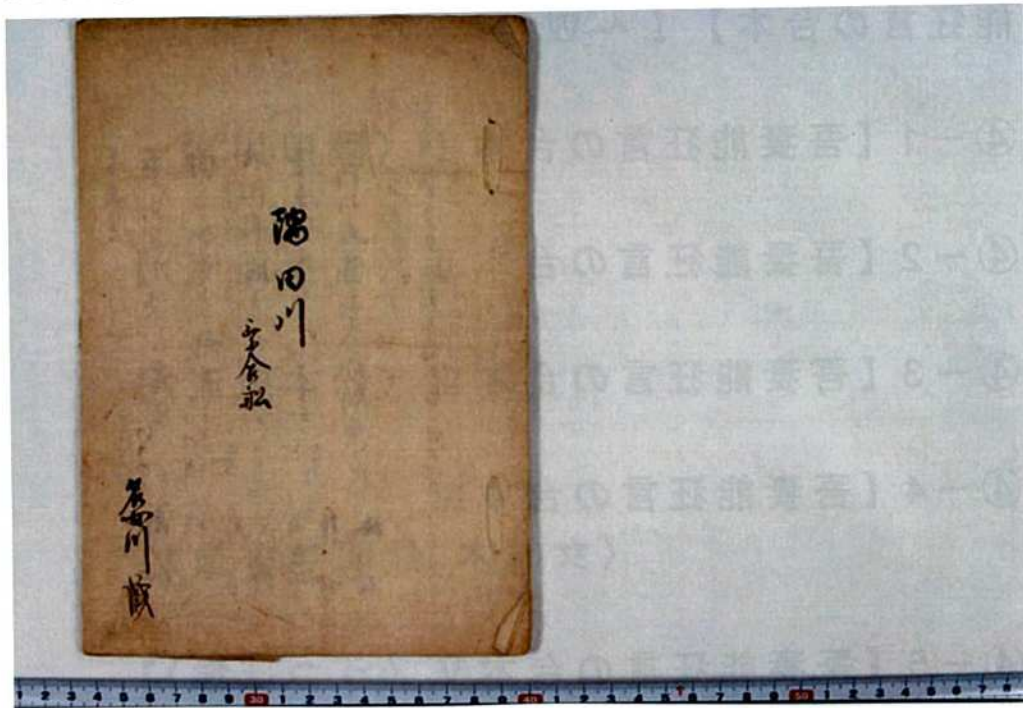
・ I 〈隅田川〉と、II 〈吾妻風流〉は古川久によって先行研究内¹に紹介されているが、他は全て新発見の台本である。

・ I 〈隅田川〉 II 〈吾妻風流〉については、文章の翻刻を古川久の論文から転載する。

・ 台本についての考察は第1部第3章にて述べる。

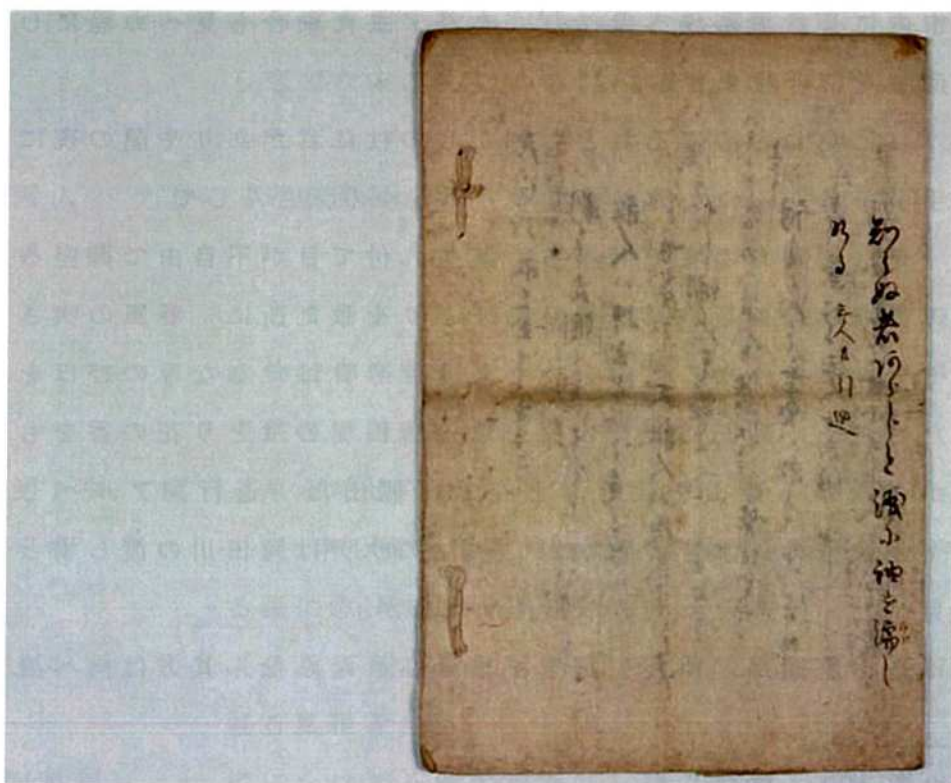
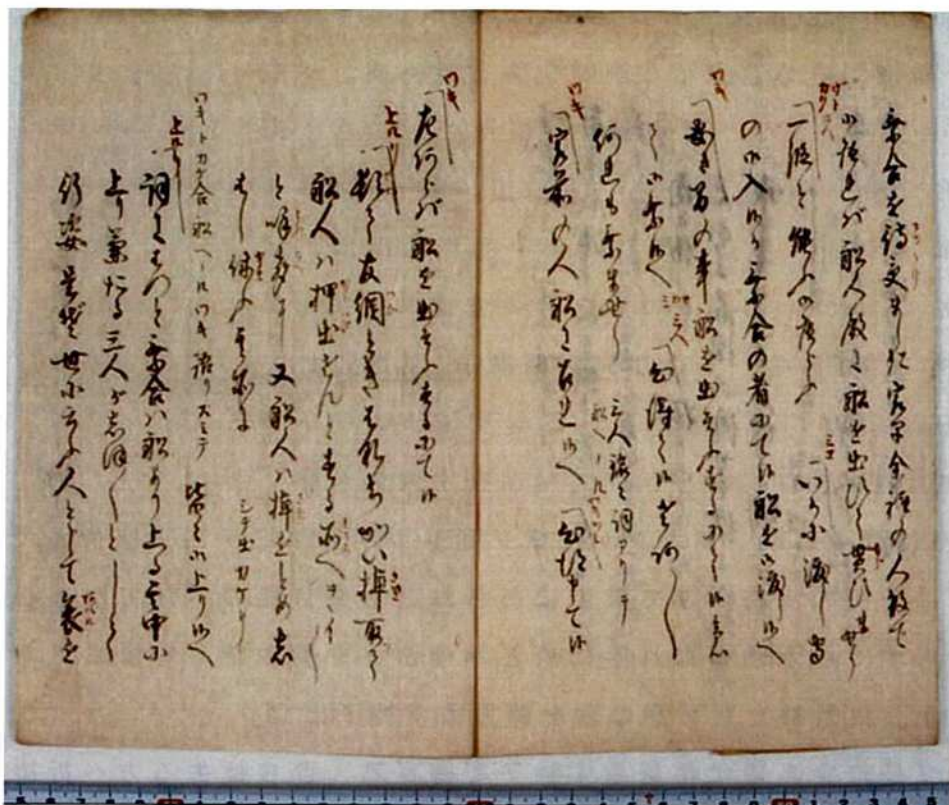
¹ 古川久「吾妻能狂言の台本」、『宝生』 東京：わんや書店、1968年、8～11頁。

資料④-1【吾妻能狂言の台本 I 〈隅田川〉】









活字翻刻版を、古川久の論文「吾妻能狂言の台本」¹より転載する。

隅 田 川

乗 合 船 名 女 川 蔵一

ワキツレ 商 人

ワ キ 船 人

狂 言 神 子、座 頭、角兵衛獅子

シ テ 狂 女

子 方 梅 若

ワキ常ノ通り座付置浄瑠璃 ワキツレ出常ノ通りカケ合スミテ二人座付キ

浄ルリ 「一河の流寄添ふて汲盃にあらねども乗合船のへだてなき心
もすぐな水馴棹ぬれ手に淡とみゆんとや胸に時斗を掛まくも
かしこき神としら髭の宮をいさめの神子出立」

ミコ詞 「是ほ寺島辺に住居致す神子で御ざる 今日去る方へ祈禱
に参り殊の外の馳走にて 我知らすめいてる致たイヤ何角と
申内に是は渡し場へ参つた ハハアまた乗合も見へぬ程にし
はらく待合せませふ」

上ルリ 「目に見ねど心にそれとしれかしの杖に目がありや闇の夜に
手引きも入らぬ女房ももたぬでいしゆの気さんじや」

ザトウ 「是は遠国方の者で御座る 某生れ付て目が不自由で御座る
に依て此程御当地へ罷登り師匠どりを致した所に 春風の吹さ
そうやら何となく遊山をいたし度存今日はたしなみのびほを
たづさへ 師匠に一日の暇を取 角田堤のはとり花の香をも
かぎながら遊山を致そふと存じて罷出た 道行詞アルベし
ヤ是は殊の外水音が致すが ハハアサテは角田川の渡し場と
見へた 何卒乗合が早ふあればよひが」

ミコ 「是へ座頭が参つた先詞を掛ませふ なふなふ其方は向へ渡

¹ 古川久 前掲書 8~11頁。

らしますか」

ザトウ 「中々 向へ渡る者で御座るが乗合ならば御頼ミ申ませう」

ミコ 「何かさて一つ所に乗ませうがそなたは何くから何方へおりやるそ」

ザトウ 「私は此間御当地へ参つて御座るが 角田堤の花が盛じやと申に依て花の香をかぎに参りませる」

ミコ 「夫は近頃浦山しい事で御座る 然らば其方は近い頃御当地へおりやつたと見ゆる 定て道中杯には面白い事が御座らふ幸 乗合の衆を待あいたに何ぞ咄ひてほ聞されまいか」

ザトウ 「夫ならば少と咄ませう」

ミコ 「急で咄さしませ」

ザトウ 「心得ました」

上ルリ 「じたい我等は関東べいの座等瞽女はは奥州金花山のほとり独り行とはどふよくな見られぬ箕尾の弁天へこもる地びたのつちのとの巳待のぼんの嬉しさを忘れてかいなと胸ぐらを見へねば青筋と取ちがへいたひ事もたんの灸七九の竹の心なら恋でなふてもいつも闇つい取付も脊中同士灸をすりむくばかりなり」

兩人ハラヒ 「近頃面目も御座りませぬ」

ザトウ

ミコ 「さてもさても面白い事で御座る 最早乗合の衆も見へさうな物で御座るが イヤ 向かふへ角兵衛獅子が見ゆる 定めて乗合で御座らふ呼ませう」

ザトウ 「早ふ呼せられひ」

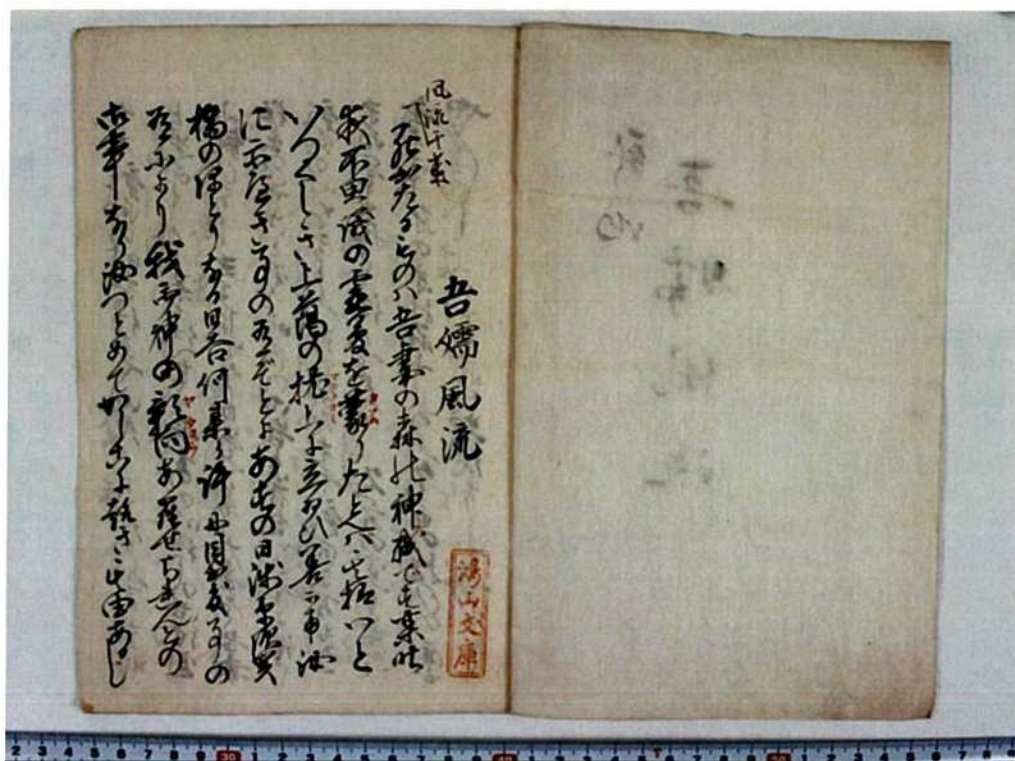
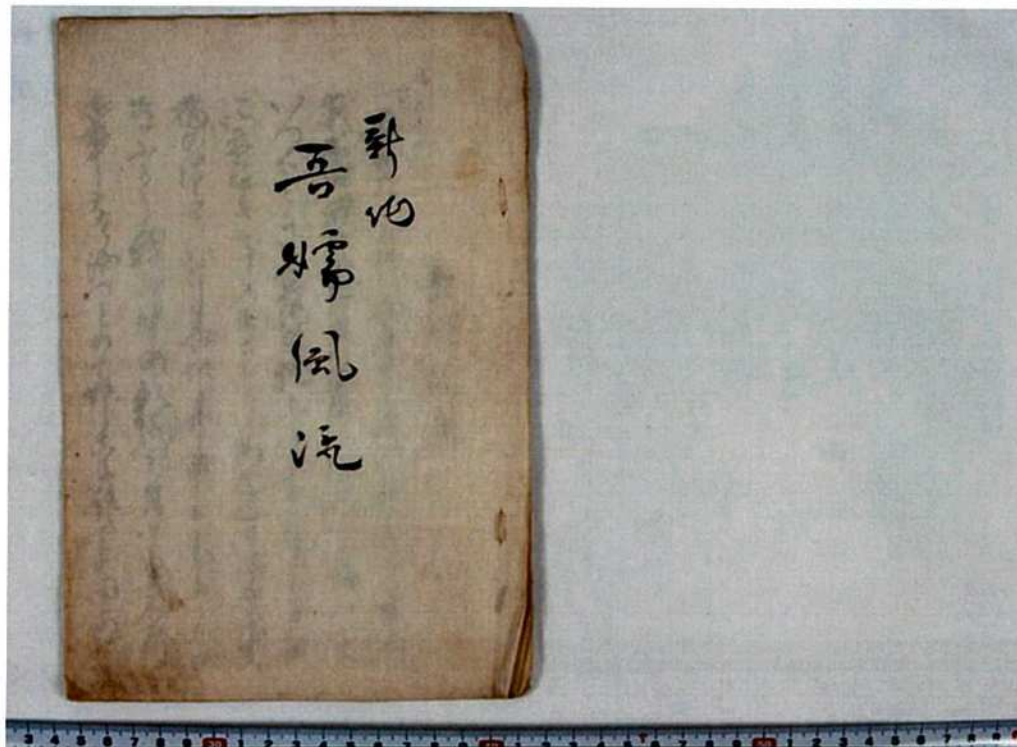
ミコ 「ア、申し角兵衛殿渡し船を越すならば乗合も待兼て居ります程に急いて是へ御出候へや」

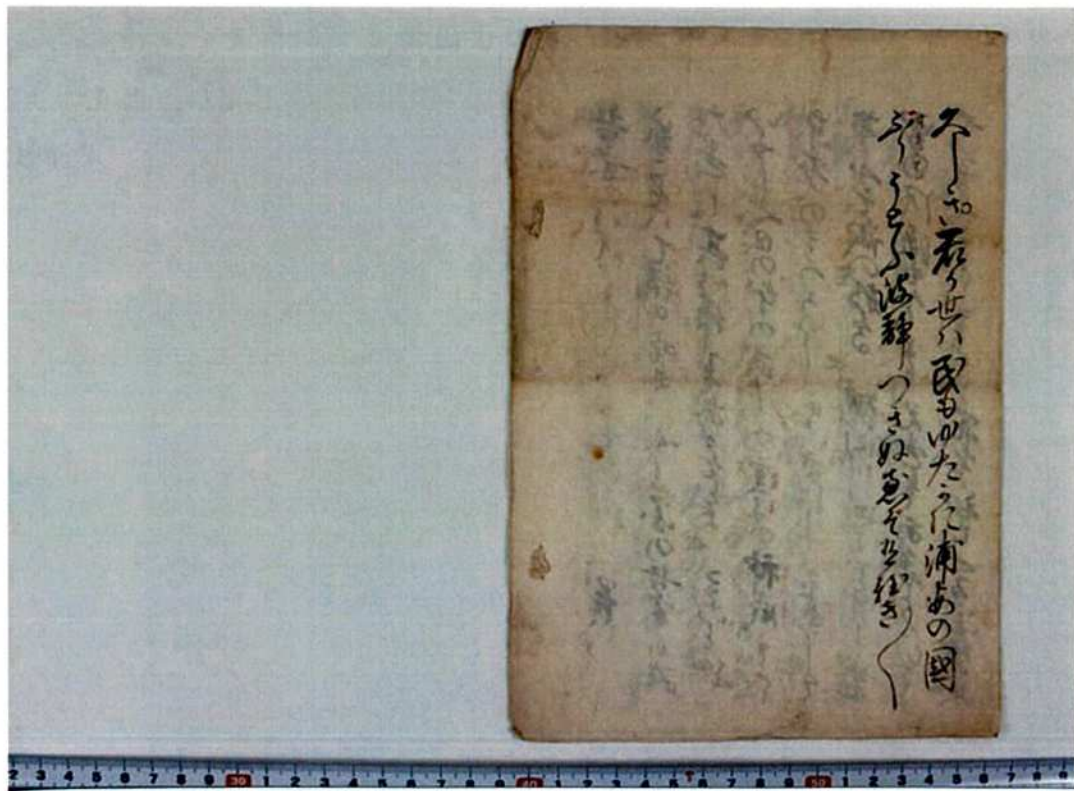
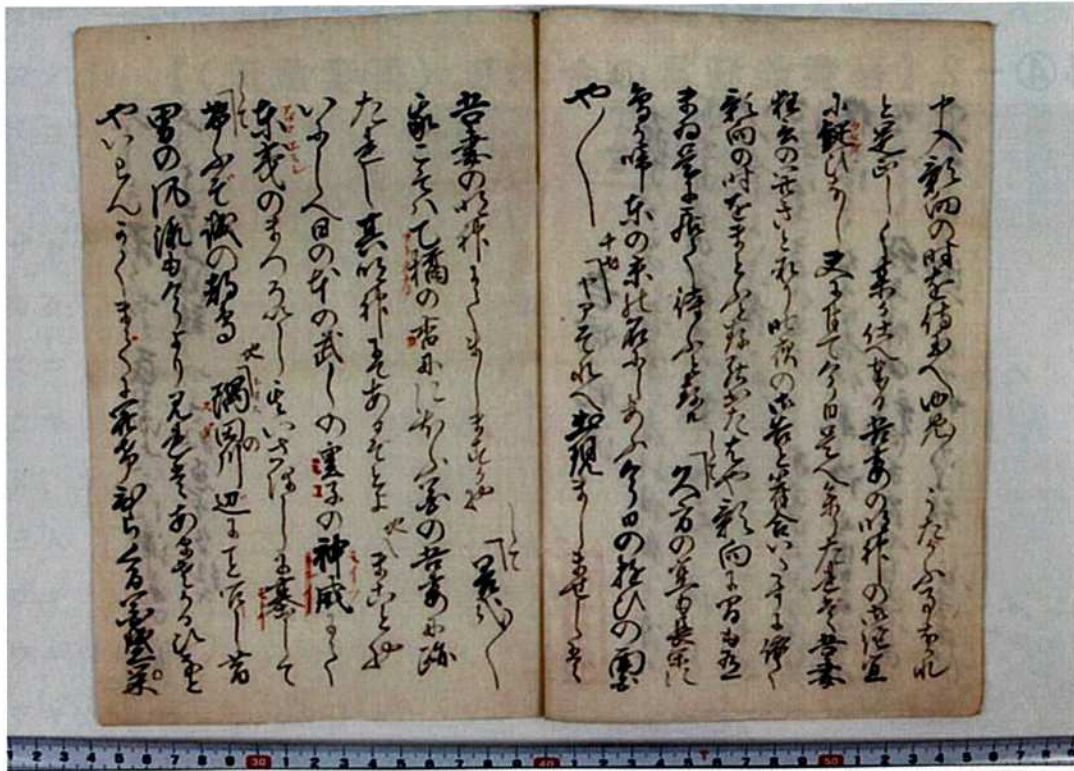
上ルリ 「角兵衛角兵衛と招かれて 居ながら見する石橋の 浮世を渡る風雅者」

〔貼紙〕 襟にかけたる曲太鼓頭に 獅々の二人りまへ 股引掛の旅神 楽我と浮れる道州に

ミコ 「なふなふ其方には向へ渡る人で御座るか」
カクベイ 「中なか向りへ渡りまする」
ミコ 「先キ程より乗合を待受ました 最早余程の人数で御座れば
船人殿に船を出ひて貰ひませう」
ザトウ 「一段と能ふ御座らふ」
カク
ミコ 「いかに渡し守の御入候か 乗合の者にて候 御渡し候へ」
ワキ 「安き間の事 船を出そうずるにて候 急て御上候へ」
ミ、カ、サ、 「心得て候 さあさあ何れも乗ませう」
三人
ワキ 「最前の人船に召れ候へ」
ワキツレ 「心得申て候」
ワキ 「さあらば船を出そふするにて候」
上ルリ 「頓て友綱ときはなちかい 棹取ッて船人は押出さんとする
所へ ヲライ ヲライと呼声に又船人は棹をとめしはし休ふ
某所に シテ出力ケリ ワキトカケ合 船へノル ワキ語リ
スミテ 皆々御上りへ」
上ルリ 「詞にはつと乗合は船より上る其中に 上り兼たる三人が
しほしほとして行姿 是ぞ世に云ふ人として 哀を知らぬ者
あらじと 涙に袖を濡しける 三人共引込」

資料④-2【吾妻能狂言の台本Ⅱ〈吾妻風流〉】





活字翻刻版を、古川久の論文「吾妻能狂言の台本」¹より転載する。

吾妻風流

風流千歳

「罷出たるものは吾妻の神職です 某昨夜不思議の霊夢を蒙りたとへば 其様いといつくしき上藤の枕上に立給ひ 善かな汝に示べき事の有ぞとよ あすの日浅草須賀橋のほとりなる日吉何某か許に目出度事の有により 我御神の影向あらせられんとの御事なり 汝つとめてかしこに趣き其由あるじ申入影向の時を待玉へ ゆめゆめうたがふ事なかれと是正しく 某か仕へ奉る吾妻の明神の御詫宣に疑ひなし 夫に付て今日是へ参りたれば吾妻狂言の開きと承り 昨夜の御告と符合いたすに依て 影向の時をまとふと存 寵出たはや影向に間も有まる 是に居て待ふと存ル」

シテ

「久方の空も長閑に鳥か啼東の京の名にしあふ今日の遊ぶの面白や面白や」

千才

「ヤアそれへ出現ましませしは吾妻の明神にてましますかや」

シテ

「善哉善哉 我こそは乙橘の香ににほふ吾妻に跡たれし其明神にてあるそとよ」

地

「まことやいにしへ日の本の 武しの実子の神威にて 東夷のまつろいし其いさほしに基して」

シテ

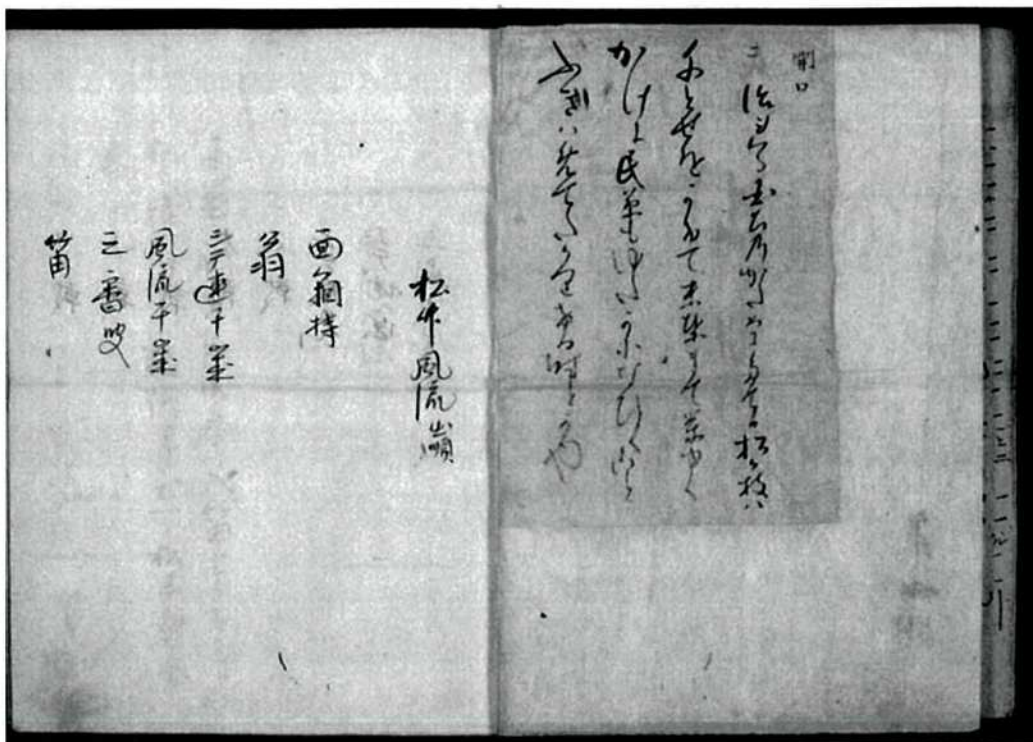
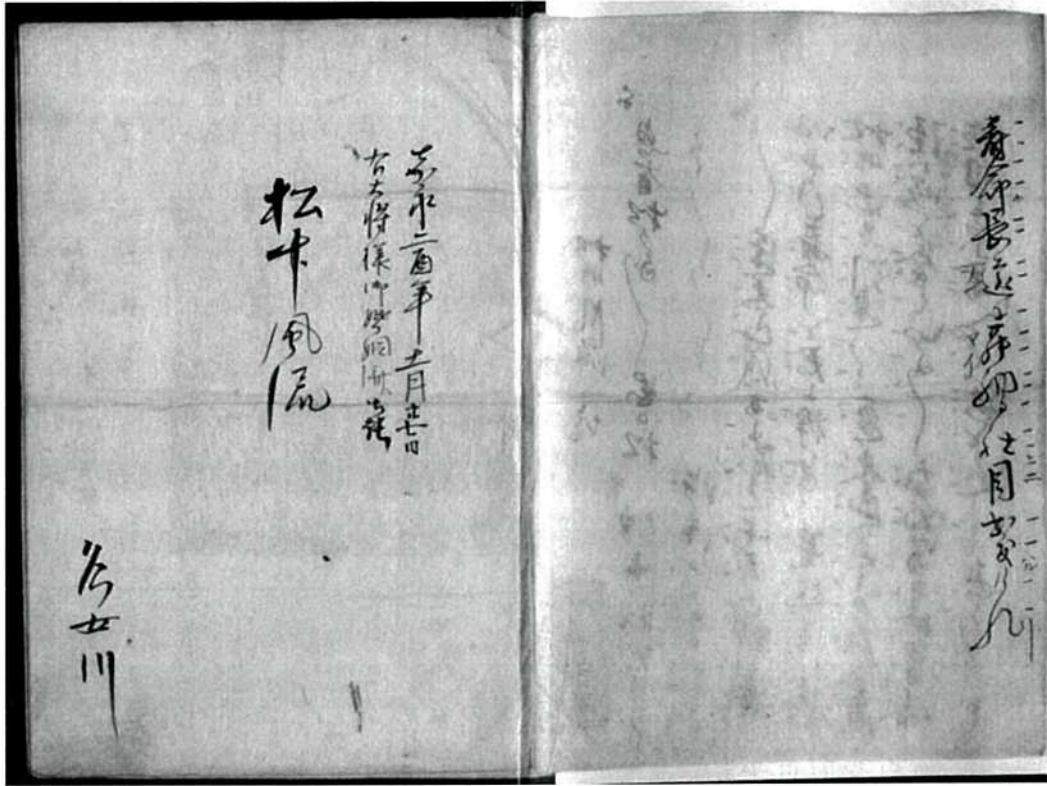
「けふそ誠の都鳥」

地

「隅田の川辺にこと問し 昔男の風流も今より見打はあまさかるひなとやいわんかくまでに開けひらくる花盛栄久しき君か世は 民もゆたかに浦安の国 ふりうとふ波静つきぬ恵そ有難き有難き」

¹ 古川久 「吾妻能狂言の台本」宝生 1968年、4月

資料④-3【吾妻能狂言の台本Ⅲ〈松本風流〉】



口平穀
 小穀
 口平穀
 大穀
 太穀
 三平穀見
 三平地遠
 三平与父後見
 風流後見
 風流地遠
 子平之相章海以奉入竹留
 松ノ根是也ノ根後より也一ノ根ニテ向ヒ分
 遠

松林同
 若代地久ノワを交たをノノ出米の
 穀しを付る事ノ根も新代のおおらん
 子平より かつ 是入米米をりしとき
 づいれいさといふやうなる者也
 松林ハ上蓮草山ノ根去の積るが冬日
 世不ノ中ノ根と根同也交米積後より
 子平ノ根見ノ根也 是近草ノ根
 是又おれらるるといふやうなる者也
 東平道蓮草山の中ノ積るる松と米ノ根
 陸陽同か後者おれらるる事ノ事ノ事ノ事
 根ハ草ノ道近草ノ根
 子平 柳ノ根か後者らるる事ノ事ノ事ノ事
 去去米ノ目か後者らるる事ノ事ノ事ノ事
 去去米ノ目
 一 柞木ハ二葉ノ事
 是と云ノ根ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
 子平ノ穀と備と雨をるる事ノ事ノ事ノ事

是(舊)と戴き(つ)り(て)これ(と)い(は)す(や)り
好(者)也

道(兼)山(王)位(舊)の(種)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に
目(か)及(り)統(後)の(と)り(て)つ(て)る(所)に

抄(語)つ(て)ゆ(つ)つ(て)す(き)す(き)

折(女)路(吉)道(兼)山(王)年(十)一(十)一
任(ん)と(連)記(の)根(本)路(の)東(三)り(と)道(兼)
の(兼)の(兼)凡(凡)也(一)ゆ(つ)つ(て)す(き)す(き)
名(る)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
過(れ)は(と)き(く)ら(と)又(と)事(治)と(一)と(一)
色(足)く(ら)ふ(充)た(死)る(事)は(八)仙(八)
も(辨)と(を)り(奉)命(と)心(の)任(子)是(を)

ま(に)く(た)聖(才)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
れ(八)君(の)教(を)ま(た)た(と)世(の)た(の)一(一)と(一)
道(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一
目(か)及(り)の(ゆ)に(一)也(一)一(一)一(一)一(一)一(一)一(一)
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
あ(つ)と(事)の(始)と(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一

目(か)及(り)の(ゆ)に(一)也(一)一(一)一(一)一(一)一(一)一(一)
祝(を)是(道)兼(山)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
ま(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
死(る)ハ(色)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん

目(か)及(り)の(ゆ)に(一)也(一)一(一)一(一)一(一)一(一)一(一)

祝(を)是(道)兼(山)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
ま(兼)山(王)年(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一(十)一
死(る)ハ(色)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん
い(と)ま(れ)ら(ん)一(と)あ(つ)て(は)統(後)と(を)あ(り)ん

ふ年万事も無久しきよぬれハ道
業山ハ年月と送り南月目出交者
しきん

和歌

和歌の感えを形

程着てしん凡るハ目おもえあう
ふ思ハ業和歌を上げ中さうさう
のしきん

和歌

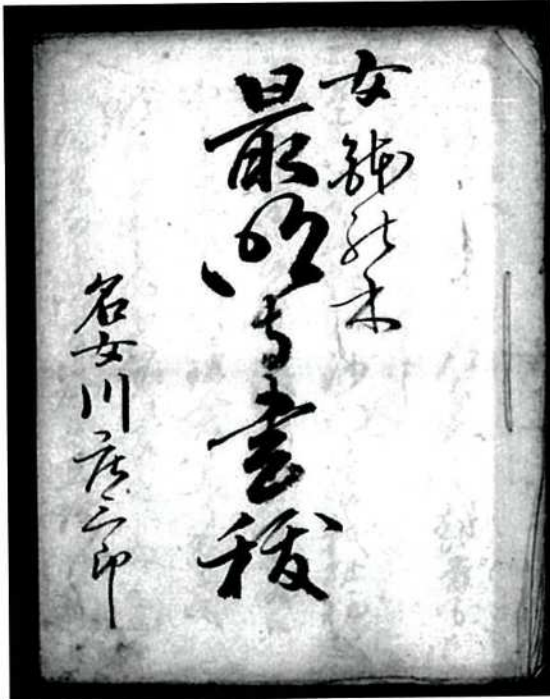
子年川
日の中他をうう位えら時とよしを
和歌いよわやとよしけ 業入久
しきん
おあしきやうも洞ひぬれハ
地切也 業入久
の業入久しきやうも洞ひぬれハ
百代の和歌しきやうも洞ひぬれハ
しきん

和歌いよわやとよしけ 業入久
しきん

業入久しきやうも洞ひぬれハ
百代の和歌しきやうも洞ひぬれハ

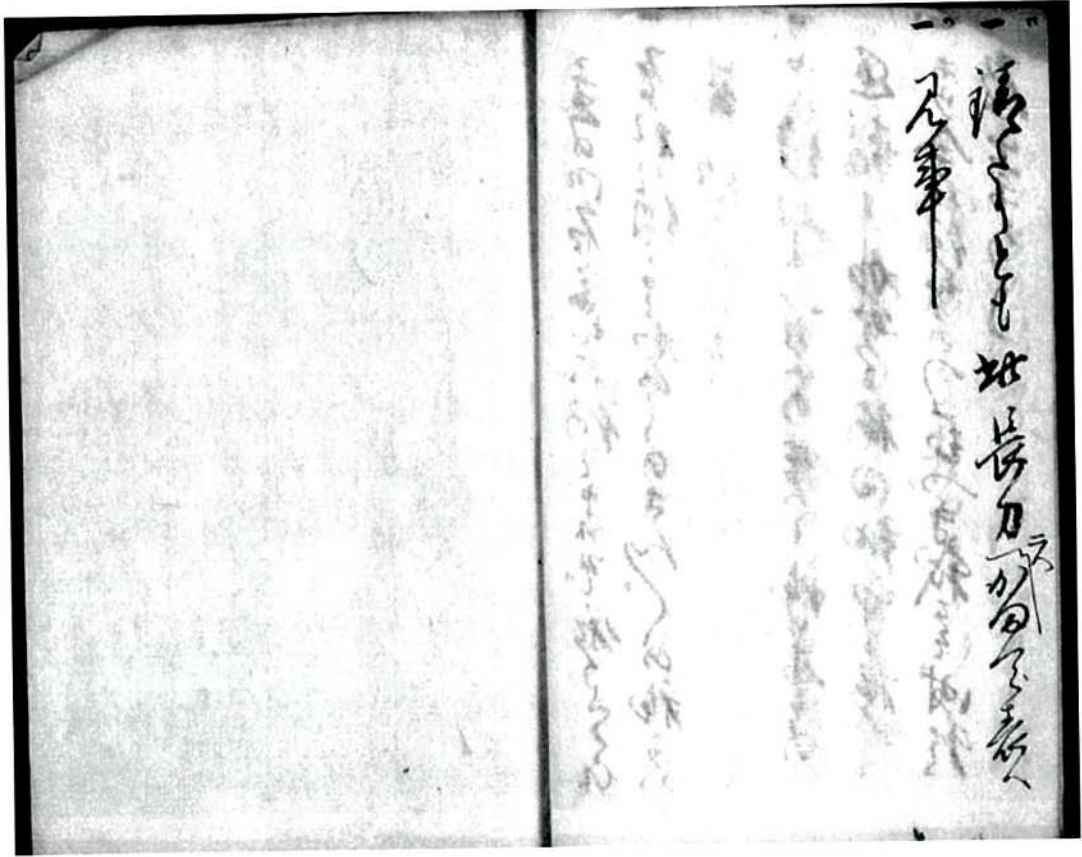
和歌いよわやとよしけ 業入久
しきん

資料④-4【吾妻能狂言の台本IV〈女鉢木 最明寺書抜〉】

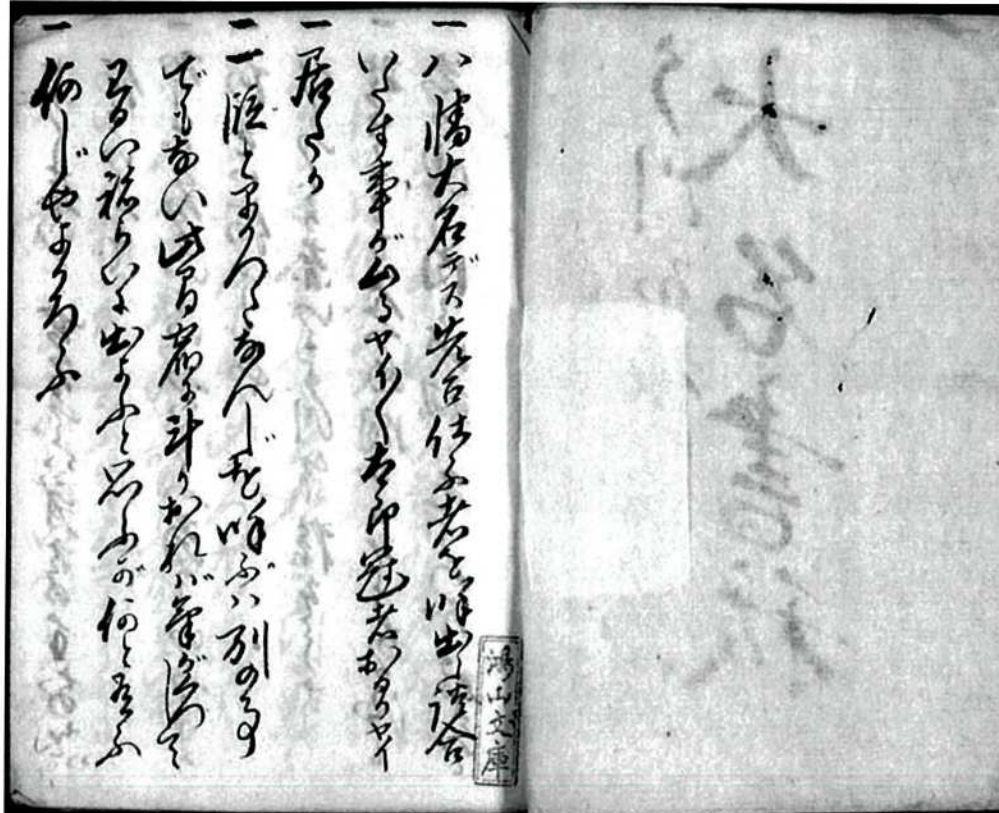
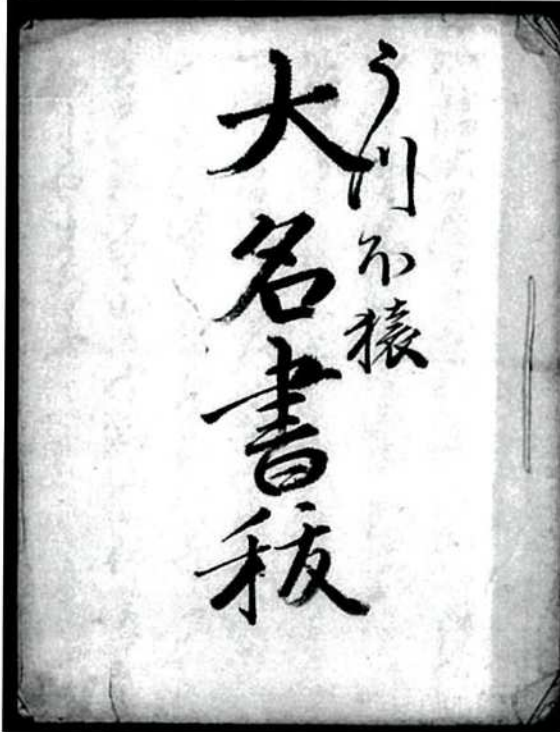


此をち人の神をいひて
 ち舟よまのうらなきこと
 今を海世を離る板の
 うまの川をたぐひての
 さのこころをいひて
 いまきのわらう上野の
 若くはありあつたや
 此をち人の神をいひて
 是の世は若くは一
 いやくと若くは一
 ひやくと若くは一
 此をち人の神をいひて
 此の世は若くは一
 いやくと若くは一
 ひやくと若くは一

是の世は若くは一
 いやくと若くは一
 ひやくと若くは一
 此をち人の神をいひて
 此の世は若くは一
 いやくと若くは一
 ひやくと若くは一
 此をち人の神をいひて
 此の世は若くは一
 いやくと若くは一
 ひやくと若くは一



資料④-5【吾妻能狂言の台本V 〈うつぼ猿〉】



一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 物といふも
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ

一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ

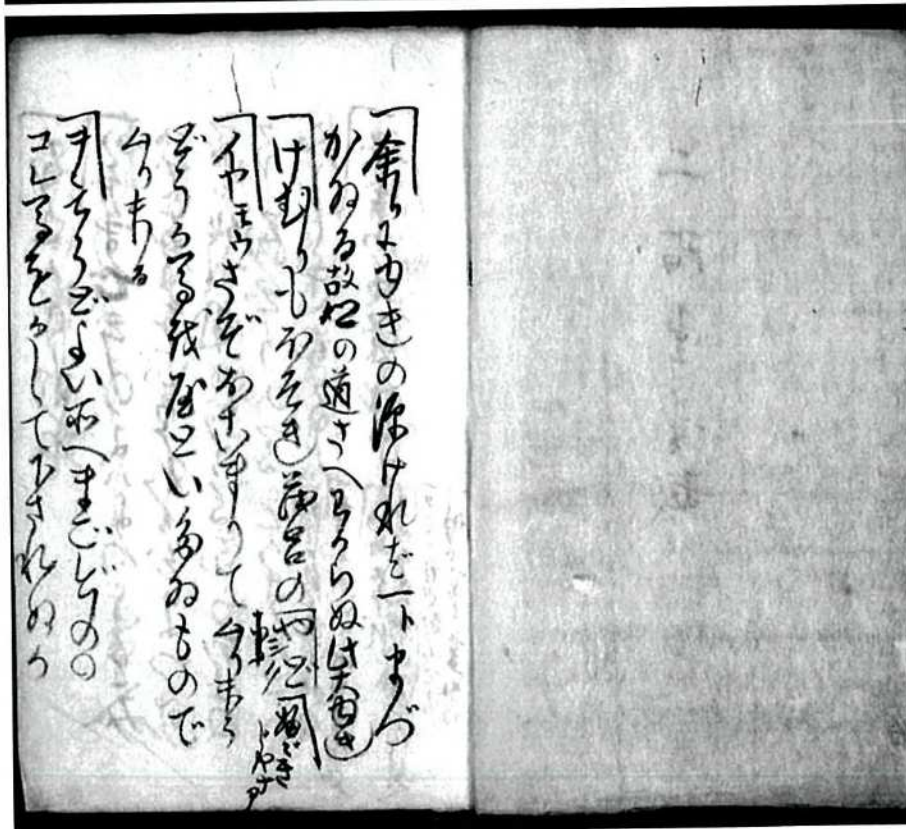
一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ

一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ
 一 考く来づく世ありては万世の白あはれ

何よりおまの様いふはるの御いふかひ
せごいふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ

命をたすはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ
おまの御いふはるの御いふはるの御いふかひ

資料④-6【吾妻能狂言の台本VI〈二階堂書拔〉】



あよりまねぬ
【あよりまねぬのまねありしことみ
へてあよをいせねむまよつけ
るべし】
【あよりまねぬのちちるあらんねぬ
るあよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】
【あよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】

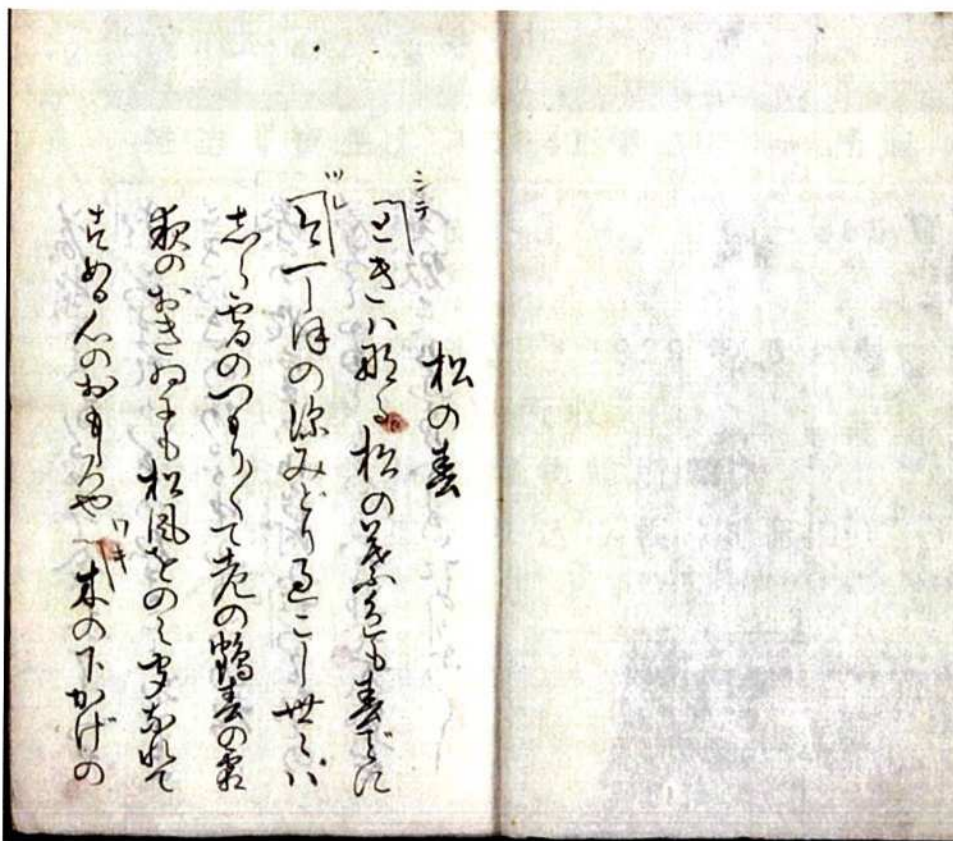
【あよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】
【あよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】

これら北嶽て佛をむむむむ
【きこみ人ごろうとをムドもち
ゆく今のを免しむあやが
あよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】

あよりまねぬ
【あよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】
【あよりまねぬのちちるあらんねぬこ
ふしきなる】



資料④-7【吾妻能狂言の台本Ⅶ〈松の春〉】



若菜わかなふくもるもて今いまふくして
[松まつつまでうしきの松まつまことかたよ
ときいぎのつら中なかあもよの松まつハ
[泰たいの始はじめ皇みかどの山やま宮みや対たいふつらるるの
り本もととゆももるこあつたてあつた
貴き殿だんまぶあもりかたあつた

資料⑤－１【第１部 第４章】

【演目リスト表Ⅰ 曲目 50 音順】

〈 凡 例 〉

・本表は吾妻能狂言の番組（前掲）より、掲載されている曲目を、それぞれ五十音順に配列したものである。

・基本資料には、前掲の吾妻能狂言の番組を用いた。

A1~15	法政大学野上記念能楽研究所所蔵	15 枚
B1~2	鴻山文庫所蔵	2 枚
C1	雑誌『寶生』 ¹ 1941年10月 所収	1 枚
D	『能から歌舞伎へ』 ² 384~385頁 所収 また雑誌『郊外』 ³ 1929年5月号 (第10巻5号) 所収	1 枚
E1~2	早稲田大学演劇博物館所蔵 (伊勢辰文庫張り込み帳 15冊目)	2 枚

¹ 柳澤澄 前掲書

² 松本亀松 前掲書

³ 島崎筑波 前掲書

・以下表の形式に則って情報を集約することとする。

① 番組 番号	② 曲名	③ 小書・ 備考	④ 日時	⑤ 場所	⑥役者、 伴奏者 の記載	⑦ 伴奏 音楽	⑧ 予想される 上演形態	⑨ 能楽界 での扱い	⑩ 催主
---------------	---------	----------------	---------	---------	--------------------	---------------	--------------------	------------------	---------

① 番組番号

吾妻能狂言番組の番号を示す。

② 曲名

上演曲目名を示すとその読み仮名を示す。読み方の不明な物に関しては()内に推測される読み仮名を記載する。

③ 小書・備考

番組に記された小書と思われる特殊演出、また曲目の前に書かれた“新作”“囃子”といった備考の記載について示す。

④ 日時

いつ行われたものかを示す。紙面の都合上書き方を以下の様に統一した。

例：明治6年4月11日 → M6/4/11

番組にあるものは全て明治のものであるので、このように年号はMと記して割愛することとした。また日数能などにおいて、一つの番組内に何日か分の興業が記載されている場合についてはそれぞれ上演日が断定できない。以上の様な場合については番組の冒頭に書かれた日付を拠り所として書いた上で、そこに番組に記載の、初日、二日目といった日付の変化を付け加えることとした。

⑤ 場所

上演された場所を簡略化して示す。本論(第1部 第1章 時

期と場所)にて考察するが、主な場所はおよそ決まっており、多少の記述の違いこそあれそのほとんどは日吉左衛門宅であったようである。その為同じ場所と推測されるものに関しては同一とみなし省略化した。

- ・ 中村楼
- ・ 河内屋
- ・ 元島原
- ・ 浅草 日吉宅
- ・ 不明

以上の5カ所に区分した。

⑥ 役者、伴奏者の記載

番組に記載された人物の名前を役割によって区分し、その記載について示す。

- ・ 能楽師、狂言師の名前があった場合、役者名と考え = (役)
- ・ 演奏者の名前があった場合、伴奏者として考え = (伴)
- ・ 囃子の演奏者の名前があった場合 = (囃)

以上のように簡略化し、あくまで人名の記載の有無を記すにとどめる。中でも囃子は演奏者であるのだから本来(伴)に含めるべきであるが、番組での記載の特性上分けて考えることとした。これについては本論の第一部(第3章 興行の様子 第2節 上演形態の傾向研究)にて考察する。

名前が番組全体の最後に記載されているのみで、どの演目に誰が出演したのかわからない番組の場合、掲載のままに、例えば“番組の最後に長唄連中 杵屋勝三郎 はやし連中 藤舎芦船 と有り”などと示し、推測を含めない書き方とした。

⑦ 伴奏音楽(三味線音楽)

番組に記載のあったそれぞれの演目に対しての伴奏者から、その演目の伴奏音楽を推測して示す。演奏者が最後に記載されているのみで伴ったか判断できない演目に関しては、空欄とし⑧の推測にて述べることとする。なお（三味線音楽）と断ったのは、この項では囃子に関しては触れないためである。

⑧ 予想される上演形態

①～⑦、⑨といった演目の情報から、当時どの様にその演目が行われていたのか、筆者なりに上演形態を推測し示す。これは番組から読み取った、あくまで筆者の私的推測の内容であることを断っておく。また、可能性の低いものに対し”？”を用いて示す。（例、新作の三味線（長唄）入り能？）この推測の根拠は本論第1部第4章にて述べることとする。

⑨ 能楽界での扱い

現在能楽界において、同名の演目が能であるか狂言であるかを示す。これらが現行か否かについては断定できる物ではない。

⑩ 催主

番組から読み取れるその興行の催主を示す。以下の名字のみに割愛して表記した。

・日吉吉左衛門	=	日吉	・桐ヶ谷鍼次郎	=	桐ヶ谷
・命尾世咲	=	命尾	・中村新三郎	=	中村
・（不明）	=	不明	・西村雪台	=	西村
・高橋銀八郎	=	高橋	・福王繁十郎	=	福王

【演目リスト表 I 曲目50音順】

① 番組 番号	②曲名 きょくめい	③ 小書・備考	④ 日時	⑤ 場所	⑥役者、伴奏者の記載	⑦ 伴奏 音楽	⑧ 予想される 上演形態	⑨ 能楽界 での扱い	⑩ 催主
A7	あい あい えぼし 相合烏帽子		M6/1/26	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)三弦: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子方: 藤舎芦船 同連中と有り		狂言	鷺流のみで あった狂言	日吉
A9	あいのうえ 葵上	新作 梓ノ出	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長 唄)入り能?	能	日吉
A10	あいのうえ 葵上	新作 三曲入	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細に有り、最後に囃 子方の詳細名有り	三曲	新作の三曲入り 能	能	日吉
B1	あいのうえ 葵上		M6/4/11 六日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
A2	あいのうえ 葵上		M3/3/6	河内屋	(役)(伴)なし		能	能	桐ヶ谷 命尾
A6	あくたろう 悪太郎		M5/12/6	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄 連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 は やし 藤舎芦船 れん中 と有り		狂言	狂言	日吉 西村
B1	あくたろう 悪太郎		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A9	あさづまぶね 朝妻船	新作 白拍子舞	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長 唄)入り能、仕 舞?		日吉
A11	あさづまぶね 朝妻船	新作	M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中:三弦: 杵屋東成 連中・囃子:藤舎 芦船 連中。		新作で、長唄(浅 妻船)に舞を伴っ た物		福王
B1	あたか 安宅	不動ノ傳	M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	鷺流のみの 小舞謡の可 能性	日吉
E1	あたか 安宅	新作	M6/10/16	不明	(役)詳細にあり、(伴)長唄連中とのみ 有り	長唄	新作の三味線(長 唄)入り能	鷺流のみの 小舞謡の可 能性	不明
D	あたか 安宅	かんじん帳	M6/9	元島原	(役)なし、(伴)長唄連中	長唄	口上に"大道具大 仕掛奉御覧入候" とあることから、役 者も入っての新作 大一番の演目で あった	能	不明
B1	あだちがはら 安達原		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
D	あだちがはら 安達原		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能、長唄の入った 可能性あり	能	不明
E1	あづまふりゅう 吾妻風流	新作	M6/10/16	不明	(役)(伴)詳細に有り	長唄	新作の長唄を伴 奏にした狂言	狂言(風流)	不明
A13	いくい 井杭		M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)詳細あり (伴)なし		能	狂言	日吉
A9	いしがみ 石神		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
A10	いしがみ 石神		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中、最後に(伴)囃子方の 詳細名有り		狂言	狂言	日吉
B1	いせさんごう 伊勢参宮		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言か能か?(長 唄入りか不明)		日吉
A8	いっせやう 一休	新作	M6/2/16	浅草 日吉宅	番組全体に (役)吾妻連中・(伴)三弦: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子:藤 舎芦船 同連中と有り		新作の能または 狂言(長唄の入っ た可能性も)	現存せず	日吉
B1	いっせやう 一休		M6/4/11 八日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能?狂言?(長唄 入りか不明)おそ らく新作もの。	現存せず	日吉
D	いぬやまぶし 犬山伏		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
B1	いままいり 今参		M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A15	いもうとのやど 妹之宿	新曲 〇〇〇	不明	不明	(役)なし、(伴)のみ詳細にあり	富本節	富本節の演奏に 舞が伴った?		不明
A6	いわふね 岩船	はやし	M5/12/6	河内屋	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄 連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 は やし 藤舎芦船 れん中 と有り		舞囃子	能	不明

A8	うちまた 内沙汰		M6/2/16	浅草 日吉宅	番組全体に(役)吾妻連中・(伴)三弦: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子:藤 舎芦船 同連中と有り		狂言	狂言	日吉
A9	うつぼざる 靱猿		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
A10	うつぼざる 靱猿		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中、最後に(伴)囃子方の 詳細名有り		狂言	狂言	日吉
B1	うつぼざる 靱猿		M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A3	うつぼざる 靱猿		M5/4/26	中村楼	(役)(伴)詳細に有り、(囃)連中とのみ	長唄	三味線(長唄)入り 狂言	狂言	中村
A4	うつぼざる 靱猿	翻案	M5/5/11	河内屋	(役)(伴)詳細に有り・(囃)詳細人物ある も関わったか不明	長唄	三味線(長唄)入り 狂言	狂言	不明
D	うつぼざる 靱猿		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常盤津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常盤津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
C1	うつぼざる 靱猿		M2/5/12	中村屋	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	不明
A9	うりぬすびと 瓜盗人		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
A9	うりぬすびと 瓜盗人		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B2	うりぬすびと 瓜盗人		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
A6	えごち 江口	間	M5/12/6	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄 連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 は やし 藤舎芦船 れん中 と有り		能	狂言	日吉 西村
B1	えごち 江口		M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
A9	えぼしおり 烏帽子折	新作	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長 唄)入り能?	能	日吉
B1	えぼしおり 烏帽子折		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能?(役者が能役 者のため。長唄入 りかは不明)	能	日吉
A10	おいまつ 老松	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中・(伴)詳細に有り、最後に 囃子方の詳細名有り	清元節	狂言連中が演じ ている為新作の 三味線(清元節)入 り狂言	能	日吉
A15	おいまつ 老松		不明	不明	(役)(伴)なし		素謡?		不明
A10	おおえやま 大江山	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細にあり、最後に囃 子方の詳細名有り	一中節 (菅野 派)	新作の三味線(一 中節)入り能	能	日吉
E2	おおえやま 大江山	新作 童子対面	M6/10/21	不明	(伴)(役)詳細に有り	一中節 (菅野 派)	新作の三味線(一 中節)入りの狂言	狂言	不明
A7	おきな 翁		M6/1/26	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)三弦: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子方: 藤舎芦船 同連中と有り		能	能	日吉
A9	おきな 翁	三番叟	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言(翁の三番叟 の部分のみを演じ た)	能	日吉
A9	おきな 翁	三番叟	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言(三番叟部 分だけを演じた)	狂言	日吉
A10	おきな 翁		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、最後に(伴)囃子方の 詳細名有り		能	能	日吉
A13	おきな 翁		M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、(伴)なし		能	能	日吉
B1	おきな 翁		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)		日吉
B1	おきな 翁		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
B1	おきな 翁		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉

A14	おきな翁	三番叟	M8/5/11	不明	(役)(伴)なし		狂言(三番叟のみを演じた)	三番叟とのみ	日吉
E1	おきな翁		M6/10/16	不明	(役)詳細に有り、(伴)なし		能	能	不明
E2	おきな翁		M6/10/16	不明	(役)詳細に有り、(伴)なし		能	能	不明
D	おきな翁		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常磐津節、清元節、入った可能性低い)	能	不明
D	おきな翁		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常磐津節、清元節、入った可能性低い)	能	不明
D	おきな翁		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常磐津節、清元節、入った可能性低い)	能	不明
D	おきな翁		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常磐津節、清元節、入った可能性低い)	能	不明
D	おきな翁		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常磐津節、清元節、入った可能性低い)	能	不明
C1	おきな翁		M2/5/12	中村屋	(役)詳細に有り、(伴)なし		能	能	不明
A1	おきな翁		M2/2/16	中村楼	(役)(伴)詳細に有り・(囃)連中とのみ	長唄	三味線(長唄)入り能	能	日吉
D	おきなさんばそう翁三番叟		M6/9	元島原	(役)なし、(伴)長唄はやし惣出ニテ相勤申候とあり	長唄	口上に"大道具大仕掛奉御覧入候"とあることから、役者も入っての新作大一番の演目であった	(翁)能(三番叟)狂言	不明
B1	おにあらそい鬼争		M6/4/11 六日目	浅草日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎声船と有り		狂言?(長唄入りか不明)	(鬼瓦)なら現存	日吉
A5	おにあらそい鬼争		M5/6/6	河内屋	(役)のみ有り		狂言(現行曲でないが、役者が狂言師のため)	(鬼瓦)なら狂言にある	不明
D	おにあらそい鬼争		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言または能?(長唄、常磐津節、清元節、入りか不明)	(鬼瓦)なら現存	不明
C1	おにあらそい鬼争		M2/5/12	中村屋	(役)詳細に有り、(伴)なし		能または狂言?	(鬼瓦)なら現存	不明
B1	かがみおとこ鏡男		M6/4/11 初日	浅草日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎声船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
B1	かすがりゅうじん春日龍神		M6/4/11 八日目	浅草日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎声船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
C1	かせん歌仙		M2/5/12	中村屋	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	不明
A7	かまばら鎌腹		M6/1/26	浅草日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)三弦:長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子方:藤舎声船 同連中と有り		狂言	狂言	日吉
A9	かまばら鎌腹		M6/6/3	浅草日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B2	かまばら鎌腹		M7/7/16	浅草日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
A3	かまばら鎌腹		M5/4/26	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	中村
B2	かみなり神鳴		M7/7/16	浅草日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
B1	かも加茂		M6/4/11 九日目	浅草日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎声船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
A9	かんじんちよう勸進帳	延年ノ舞	M6/6/3	浅草日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	(安宅)の小段名・小書	日吉

A10	かんじんちよう 勸進帳		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能楽連中、(伴)長唄連中・囃子連中と有り、最後に囃子方の詳細名有り	長唄	三味線(長唄)入りの能	<安宅>の小段名・小書	日吉
A11	かんじんちよう 勸進帳		M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連中・三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎芦船 連中。		長唄の素演奏、または三味線(長唄)入りの能、舞	<安宅>の小段名・小書	福王
B1	かんじんちよう 勸進帳		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	安宅の小段名・小書	日吉
A14	かんじんちよう 勸進帳		M8/5/11	不明	(役)なし、(伴)長唄連中・囃子連中とのみ有り	長唄	長唄の素演奏	<安宅>の小段名・小書	日吉
A5	かんじんちよう 勸進帳	新作 長唄カケ合	M5/6/6	河内屋	(役)(伴)詳細に有り	長唄	立て分かれ形式の長唄伴奏者の記載がある為、新作の三味線(長唄)入り能、仕舞(長唄)安宅勸進帳の初演をこの時掛け合いで行ったのでは)	<安宅>の小段名・小書	不明
D	かんじんちよう 勸進帳		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		長唄の素演奏 または能に長唄が入った	<安宅>の小段名・小書	不明
A1	かんじんちよう 勸進帳		M2/2/16	中村楼	(役)(伴)詳細に有り・(囃)連中とのみ	長唄	三味線(長唄)入り能	<安宅>の小段名・小書	日吉
A10	かんじようきやう 感陽宮	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能楽連中(伴)長唄連中・囃子連中とのみ有り、最後に囃子方の詳細名有り	長唄	新作の三味線(長唄)入りの能	能	日吉
A14	かんじようきやう 感陽宮		M8/5/11	不明	(役)能連中(伴)長唄連中・囃子連中とのみ有り	長唄	三味線(長唄)入りの能		日吉
A4	きかざとう 不聞座等		M5/5/11	河内屋	(役)のみ有り		狂言	狂言	不明
A8	きつねづか 狐塚		M6/2/16	浅草 日吉宅	番組全体に(役)吾妻連中・(伴)三絃: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子: 藤舎芦船 同連中と有り		狂言	狂言	日吉
A14	きねんそが 記念曾我	新作 討入	M8/5/11	不明	(役)能連中、(伴)詳細にあり(一中節と長唄)	一中節(宇治派)と長唄	新作の三味線(一中節と長唄)入りの能	なし	日吉
A10	きろくだ 木六駄		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中、最後に(伴)囃子方の詳細名有り		狂言	狂言	日吉
B1	きろくだ 木六駄		M6/4/11 六日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
A9	くちまね 口真似		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B1	くびひき 首引		M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
B1	くまさか 熊坂		M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
A6	くらまてんく 鞍馬天狗	白頭 天狗そろい 間	M5/12/6	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 はやし 藤舎芦船 れん中 と有り		能	能	日吉 西村
B1	くらまてんく 鞍馬天狗		M6/4/11 六日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
A9	くろづか 黒塚	老女長糸	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
A9	げつきやうでん 月宮殿	新作 今様舞入	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長唄)入り能	能	日吉
A13	げつきやうでん 月宮殿	二弦琴入	M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)なし、(伴)長唄連中 囃子連中とのみ有り	二弦琴と長唄	新作で藤舎芦船が二弦琴を弾き、長唄の伴奏を伴った能	能	日吉
A9	(こうこうむこ) 斯好聲		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言		日吉
A3	こうやくねり 膏薬練		M5/4/26	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	中村
A14	こうやさん 高野山	新作	M8/5/11	不明	(役)能連中、(伴)詳細にあり	富本節	新作の三味線(富本節)入りの能		日吉

A9	こかじ 小鍛治		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
A10	こかじ 小鍛治		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中(伴)長唄連中・囃子連中と のみ有り	長唄	三味線(長唄)入 りの能	能	日吉
A12	こかじ 小鍛治	白頭	M7/12/1	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中・三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎 芦船 連中。		能、三味線(長 唄)が入った可能 性も	能	日吉
B1	こかじ 小鍛治		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)		日吉
A1	こかじ 小鍛治		M2/2/16	中村楼	(役)(伴)詳細に有り・(囃)連中とのみ	長唄	三味線(長唄)入り 能	能	日吉
A8	こががさ 小傘		M6/2/16	浅草 日吉宅	番組全体に (役)吾妻連中・(伴)三絃: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子: 藤 舎芦船 同連中と有り		狂言	狂言	日吉
A9	こががさ 小傘		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
D	こががさ 小傘		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
A5	こしいのり 腰祈		M5/6/6	河内屋	(役)のみ有り		狂言	狂言	不明
A1	こずえ 梢の錦		M2/2/16	中村楼	(役)(伴)詳細に有り・(囃)連中とのみ	清元節	三味線(清元節)入 り能		日吉
D	こずへのにしき 木ずへの錦	高尾の古言	M6/9	元島原	(役)なし、(伴)清元連中	清元節	口上に"大道具大 仕掛奉御覧入候" とあることから、 役者も入ったの新作 大一番の演目で あった		不明
A9	こそでそが 小袖曾我		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
A2	こそでそが 小袖曾我		M3/3/6	河内屋	(役)(伴)なし		能	能	桐ヶ谷 命尾
A4	(ごひやくびまいり) 五百日参	氏結翻案	M5/5/11	河内屋	(役)のみ有り		鷺流のみにある (氏結)という小舞 謡を新たに演出し た狂言	鷺流のみの (氏結)とい う小舞謡の 可能正	不明
A15	まくら 桜狩		不明	不明	(伴)のみ詳細にあり	山田流 箏曲	箏曲の演奏に舞 が伴った?	現存せず	不明
A13	まろむこ 猿聲	新曲	M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)狂言惣連中、(伴)(囃)連中とのみ 有り		新作の狂言	狂言	日吉
B1	さんにんかたわ 三人片輪		M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
B2	さんにんかたわ 三人片輪		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
D	さんにんかたわ 三人片輪		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
B1	さんばそう 三番叟		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
B1	さんばそう 三番叟		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
B1	さんばそう 三番叟		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
D	しぐれさいぎょう 時雨西行		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		長唄の素演奏 舞を伴った可能性 も		不明
A12	ししむこ 獅子婿	引抜傳	M7/12/1	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中・三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎 芦船 連中。		狂言	狂言	日吉
B1	ししむこ 獅子婿		M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A10	しちきおち 七騎落	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細にあり、最後に囃 子方の詳細名有り	一中節 (宇治 派)	新作の三味線(一 中節)入りの能	能	日吉

D	しちにんしょうじょう 七人猩々		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		不明		不明
B1	しどうほうかく 止動方角		M6/4/11 九日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
E2	しどうほうかく 止動方角		M6/10/21	不明	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	不明
A9	しやつきょう 石橋	連獅子 引役ノ傳	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
B1	しやつきょう 石橋	連獅子	M6/4/11 八日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)小書から長唄入りの能の可能性も。	能	日吉
B2	しやつきょう 石橋	連獅子	M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)長唄連中 杵屋勝三郎 はやし連中 藤舎芦船 と有り	長唄	三味線(長唄)入りの能	能	高橋
A9	しゅうちやくじし 執着獅子	新作 今様蝶狂	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長唄)入り能?		日吉
A4	しゅうちやくじし 執着獅子	新作	M5/5/11	河内屋	(役)(伴)(囃)詳細に有り	長唄	新作の三味線(長唄)入り能		不明
A11	しゅうろん 宗論		M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連中・三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎芦船 連中。		狂言		福王
A4	しゅうろん 宗論		M5/5/11	河内屋	(役)のみ有り		狂言	狂言	不明
D	しゅうろん 宗論		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
B1	しゅうじょう 猩々		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
B1	しゅうざん 正尊	起請文	M6/4/11 九日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
A15	しゅうちくばい 松竹梅		不明	不明	(伴)のみ詳細にあり	山田流 箏曲	箏曲の演奏に舞が伴った?		不明
A9	すいこでん 水滸伝	新作 白虎ノ狂 武松	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長唄)入り能?	現存せず	日吉
A9	すえひろがり 末広狩		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言(末広かり)と書く	日吉
A10	すえひろがり 末広狩		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中、最後に(伴)囃子方の詳細名有り		狂言	狂言(末広かり)と書く	日吉
E1	すえひろがり 末広狩		M6/10/16	不明	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言(末広かり)と書く	不明
A2	すおうちし 素襖落		M3/3/6	河内屋	(役)(伴)なし		狂言	狂言	桐ヶ谷 命尾
B1	すみだかわ 角田川	乗合船	M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)小書から新作のもの、長唄入りの能の可能性も。	能	日吉
A10	すみだかわ 隅田川	新作 乗合船	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・狂言連中・(伴)詳細にあり、最後に囃子方の詳細名有り	清元	新作の三味線(清元節)入り能、間狂言を伴った	能	日吉
B2	すみだかわ 隅田川	乗合船	M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)(伴)詳細にあり	清元節	新作の三味線(清元節)入りの能	能	高橋
C1	すみだかわ 隅田川		M2/5/12	中村屋	(役)(囃)詳細に有り(能楽の囃子方)		能	能	不明
A3	すみだかわ 隅田川	新作	M5/4/26	中村楼	(役)(伴)詳細に有り・(囃)連中とのみ	清元節	新作の三味線(清元)入りの能(現存の清元<隅田川>とは別物、この時初めて上演か。)	能	中村
A6	すみぬり 墨塗		M5/12/6	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 はやし 藤舎芦船 れん中 と有り		狂言	狂言	日吉 西村
B1	すみぬり 墨塗		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉

A2	すみぬり 墨塗		M3/3/6	河内屋	(役)(伴)なし		狂言	狂言	桐ヶ谷 命尾
A4	すみぬり 墨塗		M5/5/11	河内屋	(役)のみ有り		狂言	狂言	不明
D	すみぬり 墨塗		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
C1	すみぬり 墨塗		M2/5/12	中村屋	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	不明
A1	すみぬり 墨塗		M2/2/16	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	日吉
B1	ぜかい 善界		M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
A10	せきでらこまち 関寺小町	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細に有り、最後に囃 子方の詳細な人名有り	富本節	新作の三味線(富 本節)入り能	能	日吉
C1	せきはらよいち 関原与市		M2/5/12	中村屋	(役)(囃)詳細に有り(能楽の囃子方)		能	能	不明
A9	せつしょうせき 殺生石	白頭	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
A9	ぜんじそが 禅師曾我		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
B1	そうしあらい 草子洗		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
B1	そうほち 惣八		M6/4/11 八日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A2	そうほち 惣八		M3/3/6	河内屋	(役)(伴)なし		狂言	狂言	桐ヶ谷 命尾
A7	そがのたいめん 曾我対面	新作	M6/1/26	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)三弦: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子方: 藤舎芦船 同連中と有り		新作の三味線(長 唄)入り能	現存せず	日吉
B1	そらうで 空腕		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
B1	だいほんにか 大般若		M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A14	だいほんにか 大般若		M8/5/11	不明	(役)狂言連中、(伴)なし		狂言	狂言	日吉
A13	たいめんそが 対面曾我		M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、(伴)長唄連中 杵屋 勝三郎 囃子連中 藤舎芦船 と有り	長唄	三味線(長唄)入 りの能? 新作とし てつくった可能 性(現存しないた めわからない)	現存せず	日吉
B1	たいめんそが 対面曾我		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能? 新作ものか。 (長唄入りか不 明)	現存せず	日吉
A9	たかお 高尾	新作 上下長愛	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長 唄)入り能?		日吉
A10	たかお 高尾	新作 船ノ場	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細に有り、最後に囃 子方の詳細な人名有り	富本節	新作の三味線(富 本節)入り能		日吉
A12	たかまご 高砂	囃子	M7/12/1	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中:三弦: 杵屋東成 連中・囃子:藤舎 芦船 連中。		舞囃子	能	日吉
A5	たかまご 高砂	囃子	M5/6/6	河内屋	(役)のみ有り		舞囃子	能	不明
A3	たかまご 高砂	囃子	M5/4/26	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		舞囃子	能	中村
B1	たちばい 太刀奪		M6/4/11 八日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
B2	たちばい 太刀奪		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
D	たちばい 太刀奪		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明

B1	ちごやぶさめ 児鎗流馬		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り,番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
D	ちごやぶさめ 児鎗流馬		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
A11	ちどり 千鳥		M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連中:三絃: 杵屋東成 連中・囃子:藤舎芦船 連中。		狂言	狂言	福王
B1	ちどり 千鳥		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り,番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
D	(ちや? ざとう) 茶〇座頭		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言?(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)		不明
B1	ちよりょう 張良		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り,番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
C1	ちよりょう 張良		M2/5/12	中村屋	(役)(囃)詳細に有り(能楽の囃子方)		能	能	不明
B2	つきみざとう 月見座頭		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
A6	つちぐも 土蜘蛛	白糸拍子	M5/12/6	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 はやし 藤舎芦船 れん中 と有り		能(三味線(長唄)の入り可能性もある)	能(土蜘蛛)と書く	日吉 西村
A8	つちぐも 土蜘蛛	新作 廓問答	M6/2/16	浅草 日吉宅	番組全体に(役)吾妻連中・(伴)三絃:長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子:藤舎芦船 同連中と有り		新作の三味線(長唄)入り能(蜘蛛の拍子舞を能じたてにしたもの)	能	日吉
B1	つちぐも 土蜘蛛		M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り,番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
D	つち 土ぐも	糸のあやとり	M6/9	元島原	(役)なし、(伴)常磐津連中	常磐津節	口上に"大道具大仕掛奉御覧入候"とあることから、役者も入っての新作大一番の演目であった	能(土蜘蛛)と書く	不明
A9	つとやまぶし 苞山伏		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
A9	つりぎつね 釣狐		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B1	つりぎつね 釣狐		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り,番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
D	つりぎつね 釣狐		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
C1	つりぎつね 釣狐	入狂言	M2/5/12	中村屋	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	不明
B1	つりぼり 釣針		M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り,番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
D	つりぼり 釣針		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
A3	つりぼり 釣針		M5/4/26	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	中村
A10	つるかめ 鶴亀		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細に有り、最後に囃子方の詳細名有り	長唄	三味線(長唄)入りの能	能	日吉
E1	つるかめ 鶴亀		M6/10/16	不明	(役)(伴)詳細に有り	長唄	三味線(長唄)入りの能	能	不明
A4	つるかめ 鶴亀	新作	M5/5/11	河内屋	(役)(伴)詳細に有り・囃子(囃)詳細人物あるも関わったか不明	長唄	新作の三味線(長唄)入り能	能	不明
D	つるかめ 鶴亀		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常磐津節、清元節、入った可能性も)	能	不明
A10	どうじょうじ 道成寺		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり・(伴)詳細にあり、最後に囃子方の詳細名有り	長唄	三味線(長唄)入りの能	能	日吉

B1	どうじょうじ 道成寺	今様舞入	M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	狂言	日吉
B1	どうじょうじ 道成寺	今様舞入	M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)小書から長唄に舞を伴った新作の可能性も。	能	日吉
B1	どうじょうじ 道成寺	間	M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		間狂言(長唄入りか不明)	間狂言	日吉
B1	どうじょうじ 道成寺		M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
A14	どうじょうじ 道成寺	白拍子舞	M8/5/11	不明	(役)能連中、(伴)詳細にあり	長唄	三味線(長唄)入りの能		日吉
C1	どうじょうじ 道成寺	間	M2/5/12	中村屋	(役)(囃)詳細に有り(能奏の囃子方)		間狂言	間狂言	不明
B1	とうづもう 唐相撲		M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
A1	とうづもう 唐相撲		M2/2/16	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	日吉
A13	とある 融		M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、(伴)については(囃)連中とのみ有り		舞囃子		日吉
A5	どぶかつちり 井碓		M5/6/6	河内屋	(役)のみ有り		狂言	狂言	不明
D	どん だろう 鈍太郎		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
A10	なまあま 泣尼		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中、最後に(伴)囃子方の詳細名有り		狂言	狂言	日吉
B1	なまあま 泣尼		M6/4/11 九日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
D	なまむこ 泣聲		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言?(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)		不明
B1	なりひらもち 業平餅		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
E2	なりひらもち 業平餅		M6/10/21	不明	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言	不明
D	なりひらもち 業平餅		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
B1	なわなひ 縄綱		M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
A10	におう 仁王		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)狂言連中、最後に(伴)囃子方の詳細名有り		狂言	狂言	日吉
D	におう 仁王		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
A11	ににんわんきやう 二人椀久		M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連中;三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎芦船 連中。		長唄演奏		福王
B2	ににんわんきやう 二人椀久		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)なし、(伴)長唄連中とのみ有り	長唄	長唄の演奏		高橋
A9	ね ぎ やまぶし 禰宜山伏		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
A5	(ねだい) 寝代		M5/6/6	河内屋	(役)のみ有り		狂言	驚流のみにあった狂言の曲目	不明
B1	はぎだいまよう 萩大名		M6/4/11 六日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
D	はぎだいまよう 萩大名		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明

A6	はくよう 伯養		M5/12/6	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 さみせん 杵屋勝三郎 連中 はやし 藤舎芦船 れん中 と有り		狂言	狂言(拍陽)と書く	日吉 西村
A9	はくよう 伯養		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
D	はくよう 伯養		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
B2	はごろも 羽衣	囃子	M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		舞囃子	能	高橋
A9	はしべんけい 橋弁慶	新作	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長唄)入り能?	能	日吉
B1	はしべんけい 橋弁慶		M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
E1	(はしだて) 柱建	新作	M6/10/16	不明	(役)詳細にあり、(伴)長唄連中とのみ有り		新作の三味線(長唄)入り能		不明
A5	はちたかき 鉢叩		M5/6/6	河内屋	(役)のみ有り		狂言	狂言	不明
B1	はちのき 鉢木		M6/4/11 六日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
E2	はち 鉢の木	新作	M6/10/21	不明	(役)詳細にあり、(伴)菅野連中とのみ有り	一中節 (菅野派)	新作の三味線(一中節)入りの狂言	能(鉢木)と書く	不明
A15	(はなかわど みがわり のだん) 花川戸身替 ノ段	お志ゆん 伝兵衛	不明	不明	(伴)のみ詳細にあり	箏曲の 三味線 と富本	箏曲の三味線と富本の演奏に舞が伴った		不明
B1	はなご 花子		M6/4/11 八日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
B1	はなとりずも 鼻取相撲		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
A7	はなみざとう 花見座頭		M6/1/26	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)三弦:長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子方:藤舎芦船 同連中と有り		狂言	狂言	日吉
B1	はなみざとう 花見座頭		M6/4/11 九日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
A15	(はるのよしようじゆめ) 春夜障子梅	夕きり 伊左衛門	不明	不明	(伴)のみ詳細にあり	箏曲の 三味線 と富本	箏曲の三味線と富本の演奏に舞が伴った		不明
E2	(はんかい) 板開	新作 吾妻の寿	M6/10/21	不明	(役)詳細にあり、(伴)荻江連中とのみ有り	荻江節	新作の三味線(荻江節)入りの狂言(役者が狂言師のため)	現存せず	不明
A9	ぶあく 武悪		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B2	ぶあく 武悪		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
D	ぶあく 武悪		M6/9/28 三日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、常磐津節、清元節、入ったか不明)	狂言	不明
A9	ふのかみ 福神		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B1	ふのかみ 福神		M6/4/11 十日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
A12	ふくろやまぶし 巢山伏		M7/12/1	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連中:三弦: 杵屋東成 連中・囃子:藤舎芦船 連中。		狂言	狂言	日吉
B1	ふじと 藤戸		M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		能(長唄入りか不明)	能	日吉
B1	ぶず 附子		M6/4/11 二日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と有り		狂言(長唄入りか不明)	狂言	日吉
B2	(ふせないまよう) 布施無経		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言		高橋
A14	ふたこすみだがわ 双子隅田川	新作 天狗替衣	M8/5/11	不明	(役)能連中、(伴)詳細にあり	一中節 (菅野派)	新作の三味線(一中節)入りの能		日吉

A3	ふたりだいみょう 二人り大名		M5/4/26	中村楼	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言	狂言 (二人大名) と書く	中村
B1	ふたりだいみょう 二人大名		M6/4/11 三日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
A14	ふたりだいみょう 二人大名		M8/5/11	不明	(役)狂言連中とのみあり、(伴)なし		狂言	狂言	日吉
A12	ふたりばかま 二人り袴		M7/12/1	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中:三絃: 杵屋東成 連中・囃子:藤舎 芦船 連中。		狂言	狂言 (二人袴) と書く	日吉
B1	ふたりばかま 二人袴		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		狂言(長唄入りか 不明)	狂言	日吉
B2	ふたりばかま 二人袴		M7/7/16	浅草 日吉宅	(役)詳細にあり、(伴)なし		狂言	狂言	高橋
D	ふたりばかま 二人袴		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
A9	ふなべんけい 船弁慶	波間ノ傳	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		能	能	日吉
A10	ふなべんけい 船弁慶		M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細にあり、最後に囃 子方の詳細名有り	長唄	新作の三味線(長 唄)入りの能	能	日吉
A11	ふなべんけい 船弁慶	浪間拍子	M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中:三絃: 杵屋東成 連中・囃子:藤舎 芦船 連中。		能、または三味線 (長唄)入りの能	能	福王
B1	ふなべんけい 船弁慶		M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
B1	ふなべんけい 船弁慶	間	M6/4/11 七日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		間狂言(長唄入り か不明)	間狂言	日吉
A2	ふなべんけい 船弁慶	前後 替衣装	M3/3/6	河内屋	(役)(伴)なし		能	能	桐ヶ谷 命尾
D	ふなべんけい 船弁慶		M6/9/28 二日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能または長唄が 入った可能性も	能	不明
A3	ふなべんけい 船弁慶	替の伝 (小書) 舟唄 (間狂言) 友綱ノ伝	M5/4/26	中村楼	(役)(伴)囃子詳細に有り	長唄	三味線(長唄)入り 能 間狂言入り(舟唄 は替の間にあたる 間狂言、友綱の 伝は今ない小書 のようだ)	能	中村
A14	ぼうし 棒志ばり		M8/5/11	不明	(役)狂言連中とのみあり、(伴)なし		狂言	狂言(棒縛 と)書く	日吉
A7	ほうりゅうかく 芳流閣	新作 八犬伝	M6/1/26	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)三絃: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子方: 藤舎芦船 同連中と有り		新作の三味線(長 唄)入り能		日吉
D	ほねかわ 骨皮		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		狂言のみ(長唄、 常磐津節、清元 節、入ったか不 明)	狂言	不明
A8	まくらじし 枕獅子	新作 和合	M6/2/16	浅草 日吉宅	番組全体に (役)吾妻連中・(伴)三絃: 長唄連中 杵屋東成 同連中、囃子:藤 舎芦船 同連中と有り		新作の三味線(長 唄)入りの仕舞?	(長唄)	日吉
A5	まくらじし 枕獅子		M5/6/6	河内屋	(役)(伴)長唄連中、囃子連中と有り	長唄	長唄の三味線を 伴った仕舞?	長唄	不明
A15	まつかぜ 松風		不明	不明	(伴)のみ詳細にあり	山田流 箏曲	箏曲の演奏に舞 が伴った?	能	不明
D	まつかぜ 松風	はまのうら波	M6/9	元島原	(役)なし、(伴)清元連中	清元節	口上に"大道具大 仕掛奉御覧入候" とあることから、役 者も入っての新作 大一番の演目で あった	能	不明
B1	みだれ 乱	五段返し	M6/4/11 四日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
B1	みつどもえ 三ツ巴	獅子 乱曲	M6/4/11 六日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能?(長唄入りか 不明)新作ものの 可能性も	現存せず	日吉
E1	みつどもえ 三ツ巴	太鼓ノ石橋	M6/10/16	不明	(役)詳細にあり、(伴)長唄連中とのみ 有り		新作の三味線(長 唄)入り能	現存せず	不明

A1	みつどもえ 三つ巴	獅子 乱曲	M2/2/16	中村楼	(役)(伴)(囃)詳細に有り	長唄	三味線(長唄)入り 能、白頭1人赤頭 2人とあるので獅子 もの一つ	現存せず	日吉
B1	みお 三輪		M6/4/11 九日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
A10	むねきよ 宗清	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細に有り、最後に囃 子方の詳細名有り	常磐津 節	新作の三味線(常 磐津節)入りの能		日吉
A9	もちづき 望月	新作 夢中獅子舞	M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		新作の三味線(長 唄)入り能	能	日吉
A10	もちづき 望月	新作	M7/2/10	浅草 日吉宅	(役)能連中・(伴)詳細にあり、最後に囃 子方の詳細名有り	常磐津 節	新作の三味線(常 磐津節)入り能	能	日吉
A13	もちづき 望月	新作	M8/1/21	浅草 日吉宅	(役)(伴)詳細にあり	一中節 (宇治 派)	新作の三味線(一 中節)入りの能		日吉
B1	もちづき 望月		M6/4/11 五日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
C1	もちづき 望月		M2/5/12	中村屋	(役)(囃)詳細に有り(能楽の囃子方)		能	能	不明
D	もちづき 望月	宿やのあだ 討	M6/9	元島原	(役)なし、(伴)常磐津連中	常磐津 節	口上に"大道具大 仕掛奉御覧入候" とあることから、役 者も入ったの新作 大一番の演目で あった	能	不明
B1	もみじがり 紅葉狩		M6/4/11 初日	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
E2	もみじがり 紅葉狩	新作	M6/10/21	不明	(役)詳細にあり、(伴)菅野連中とのみ 有り	一中節 (菅野 派)	新作の三味線(一 中節)入りの狂言	能	不明
A12	ようちそが 夜討曾我	兄弟討入 大藤内(替の 間)	M7/12/1	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中:三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎 芦船 連中。		能、替の間を伴っ た	能	日吉
B1	ようちそが 夜討曾我		M6/4/11 八日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
D	ようちそが 夜討曾我		M6/9/29 五日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		能のみ(長唄、常 磐津節、清元節、 入ったか不明)	能	不明
A9	よびこえ 呼声		M6/6/3	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻惣連中、(伴)長 唄、囃子共に詳細に記載有り。		狂言	狂言	日吉
B1	らしょうもん 羅生門		M6/4/11 九日目	浅草 日吉宅	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄連 中 杵屋勝三郎、囃子連中 藤舎芦船と 有り		能(長唄入りか不 明)	能	日吉
A11	(りんかいしゃ) 輪回車	新作	M7/11/26	浅草 日吉宅	番組最後に(役)吾妻連中・(伴)長唄連 中:三絃: 杵屋東成 連中・囃子: 藤舎 芦船 連中。		新作の狂言か能?		福王
D	れんじし 連獅子		M6/9/28 初日	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		長唄に仕舞が 入った新作?	能の小書	不明
D	れんじし 連獅子	ボタンのくる ゐ	M6/9	元島原	(役)なし、(伴)長唄連中	長唄	口上に"大道具大 仕掛奉御覧入候" とあることから、役 者も入ったの新作 大一番の演目で あった	能(石橋)の 小書	不明
E1	(はっぴんあし) 八笑人噺競	新作	M6/10/16	不明	(役)詳細に有り、(伴)なし		狂言(役者が狂言 師のため)		不明
D	〇〇〇 (文字解説不可)		M6/9/28 四日目	元島原	(役)詳細に有り、番組最後に(伴)長唄、 常磐津節、清元節の詳細な人名有り		不明		不明

資料⑤-2 {第1部 第4章 第1節}

【演目リスト表Ⅱ 上演回数が多い演目】

- ・ この表は【演目リスト表】Ⅰから、上演された回数が多い演目を抜き出してまとめた物である。
- ・ 3回以上上演された記録のある演目について抜き出し、曲名は五十音順に並べた。
- ・ 表の凡例は【演目リスト表】Ⅰと同じである。
ただし記載したのは、番組番号(①)、曲名(②)、小書・備考(③)、年月日(④)、確実に伴った伴奏音楽(=⑦伴った伴奏音楽)、能楽界での扱い(⑨)の6項目のみに限定した。
- ・ この表に於ける考察は本論第一部(第4章 第2節 演目の傾向研究 第1項 上演頻度の高い曲目傾向)にて後述する。

資料⑤-2 【演目リスト表 II 上演回数が多い演目】

番組 番号	曲名	小書・備考	年月日	確実に伴 った伴奏 音楽	現行音楽界 における扱い
18回					
A7	翁		M6/1/26		能
A9	翁	三番叟	M6/6/3		能 (狂言の可能性)
A9	翁	三番叟	M6/6/3		能 (狂言の可能性)
A10	翁		M7/2/10		能
A13	翁		M8/1/21		能
B1	翁		M6/4/11 初日		能
B1	翁		M6/4/11 五日目		能
B1	翁		M6/4/11 十日目		能
A14	翁	三番叟	M8/5/11		能 (狂言の可能性)
E1	翁		M6/10/16		能
E2	翁		M6/10/16		能
D	翁		M6/9/28 初日		能
D	翁		M6/9/28 二日目		能
D	翁		M6/9/28 三日目		能
D	翁		M6/9/28 四日目		能
D	翁		M6/9/29 五日目		能
C1	翁		M2/5/12		能
A1	翁		M2/2/16	長唄	能

8回					
A9	勸進帳	延年ノ舞	M6/6/3		〈安宅〉の 小段名・小書
A10	勸進帳		M7/2/10	長唄	〈安宅〉の 小段名・小書
A11	勸進帳		M7/11/26	長唄	〈安宅〉の 小段名・小書
B1	勸進帳		M6/4/11 初日		〈安宅〉の 小段名・小書
A14	勸進帳		M8/5/11	長唄	〈安宅〉の 小段名・小書
A5	勸進帳	新作 長唄カケ合	M5/6/6	長唄	〈安宅〉の 小段名・小書
D	勸進帳		M6/9/28 三日目	長唄	〈安宅〉の 小段名・小書
A1	勸進帳		M2/2/16	長唄	〈安宅〉の 小段名・小書
A9	船弁慶	波間ノ傳	M6/6/3		能

A10	船弁慶		M7/2/10	長唄	能
A11	船弁慶	浪間拍子	M7/11/26		能
B1	船弁慶		M6/4/11 七日目		能
B1	船弁慶	間	M6/4/11 七日目		間狂言
A2	船弁慶	前後 替衣装	M3/3/6		能
D	船弁慶		M6/9/28 二日目		能
A3	船弁慶	替の伝 舟唄 友綱ノ伝	M5/4/26	長唄	能

7 回					
A9	靱猿		M6/6/3		狂言
A10	靱猿		M7/2/10		狂言
B1	靱猿		M6/4/11 二日目		狂言
A3	靱猿		M5/4/26	長唄	狂言
A4	靱猿	翻案	M5/5/11	長唄	狂言
D	靱猿		M6/9/28 二日目		狂言
C1	靱猿		M2/5/12		狂言
A6	墨塗		M5/12/6		狂言
B1	墨塗		M6/4/11 五日目		狂言
A2	墨塗		M3/3/6		狂言
A4	墨塗		M5/5/11		狂言
D	墨塗		M6/9/28 三日目		狂言
C1	墨塗		M2/5/12		狂言
A1	墨塗		M2/2/16		狂言
A10	道成寺		M7/2/10	長唄	能
B1	道成寺	今様舞入	M6/4/11 二日目		狂言
B1	道成寺	今様舞入	M6/4/11 三日目		能
B1	道成寺	間	M6/4/11 三日目		間狂言
B1	道成寺		M6/4/11 四日目		能
A14	道成寺	白拍子舞	M8/5/11	長唄	能
C1	道成寺	間	M2/5/12		間狂言

5 回					
A9	小鍛冶		M6/6/3		能
A10	小鍛冶		M7/2/10	長唄	能
A12	小鍛冶	白頭	M7/12/1		能

B1	小鍛冶		M6/4/11 初日		能
A1	小鍛冶		M2/2/16	長唄	能
B1	角田川	乗合船	M6/4/11 十日目		能
A10	隅田川	新作 乗合船	M7/2/10	清元	能
B2	隅田川	乗合船	M7/7/16	清元節	能
C1	隅田川		M2/5/12		能
A3	隅田川	新作	M5/4/26	清元節	能
A9	望月	新作 夢中獅子舞	M6/6/3		能
A10	望月	新作	M7/2/10	常磐津節	能
A13	望月	新作	M8/1/21	一中節	能
B1	望月		M6/4/11 五日目		能
C1	望月		M2/5/12		能

4 回					
A9	葵上	新作 梓ノ出	M6/6/3		能
A10	葵上	新作 三曲入	M7/2/10	三曲	能
B1	葵上		M6/4/11 六日目		能
A2	葵上		M3/3/6		能
B1	鬼争		M6/4/11 六日目		〈鬼瓦〉は 狂言に現存
A5	鬼争		M5/6/6		〈鬼瓦〉は 狂言に現存
D	鬼争		M6/9/28 二日目		〈鬼瓦〉は 狂言に現存
C1	鬼争		M2/5/12		〈鬼瓦〉は 狂言に現存
A7	鎌腹		M6/1/26		狂言
A9	鎌腹		M6/6/3		狂言
B2	鎌腹		M7/7/16		狂言
A3	鎌腹		M5/4/26		狂言
A10	鶴亀		M7/2/10	長唄	能
E1	鶴亀		M6/10/16	長唄	能
A4	鶴亀	新作	M5/5/11	長唄	能
D	鶴亀		M6/9/28 初日		能
A9	釣狐		M6/6/3		狂言
B1	釣狐		M6/4/11 七日目		狂言
D	釣狐		M6/9/28 二日目		狂言
C1	釣狐	入狂言	M2/5/12		狂言
A12	二人り袴		M7/12/1		狂言
B1	二人袴		M6/4/11 初日		狂言

B2	二人袴		M7/7/16		狂言
D	二人袴		M6/9/28 二日目		狂言

3 回					
A9	瓜盗人		M6/6/3		狂言
A9	瓜盗人		M6/6/3		狂言
B2	瓜盗人		M7/7/16		狂言
A8	小傘		M6/2/16		狂言
A9	小傘		M6/6/3		狂言
D	小傘		M6/9/28 四日目		狂言
B1	三人片輪		M6/4/11 四日目		狂言
D	三人片輪		M6/9/29 五日目		狂言
B2	三人片輪		M7/7/16		狂言
B1	三番叟		M6/4/11 初日		狂言
B1	三番叟		M6/4/11 五日目		狂言
B1	三番叟		M6/4/11 十日目		狂言
A9	石橋	連獅子 引稜ノ傳	M6/6/3		能
B1	石橋	連獅子	M6/4/11 八日目		能
B2	石橋	連獅子	M7/7/16	長唄	能
A4	宗論		M5/5/11		狂言
A11	宗論		M7/11/26		狂言
D	宗論		M6/9/28 二日目		狂言
A9	末広狩		M6/6/3		狂言〈末広かり〉
A10	末広狩		M7/2/10		狂言〈末広かり〉
E1	末広狩		M6/10/16		狂言〈末広かり〉
B1	太刀奪		M6/4/11 八日目		狂言
B2	太刀奪		M7/7/16		狂言
D	太刀奪		M6/9/28 四日目		狂言
A6	土蜘蛛	白糸拍子	M5/12/6		能〈土蜘蛛〉
A8	土蜘蛛	新作 廓問答	M6/2/16		能〈土蜘蛛〉
B1	土蜘蛛		M6/4/11 三日目		能〈土蜘蛛〉
B1	釣針		M6/4/11 四日目		狂言
D	釣針		M6/9/29 五日目		狂言
A3	釣針		M5/4/26		狂言
B1	業平餅		M6/4/11 十日目		狂言
E2	業平餅		M6/10/21		狂言

D	業平餅		M6/9/28 初日		狂言
A6	伯養		M5/12/6		狂言〈拍陽〉
A9	伯養		M6/6/3		狂言〈拍陽〉
D	伯養		M6/9/28 初日		狂言〈拍陽〉
A9	武悪		M6/6/3		狂言
B2	武悪		M7/7/16		狂言
D	武悪		M6/9/28 三日目		狂言
A3	二人 <small>り</small> 大名		M5/4/26		狂言〈二人大名〉
B1	二人大名		M6/4/11 三日目		狂言〈二人大名〉
A14	二人大名		M8/5/11		狂言〈二人大名〉
A12	夜討曾我	兄弟討入 大藤内	M7/12/1		能
B1	夜討曾我		M6/4/11 八日目		能
D	夜討曾我		M6/9/29 五日目		能
B1	三ツ巴	獅子 乱曲	M6/4/11 六日目		現存せず
E1	三ツ巴	太鼓ノ石橋	M6/10/16		現存せず
A1	三つ巴	獅子 乱曲	M2/2/16	長唄	現存せず

資料⑤－3 {第1部 第4章}

【演目リスト表Ⅲ 三味線音楽を伴った演目リスト】

- ・この表は【演目リスト表】Ⅰから、伴奏者や音曲の種類の記事があり、確実に三味線音楽を伴った演目を抜き出してまとめた物である。
- ・曲目の多い伴奏音楽の種目順に並べることとした。
- ・表の凡例は【演目リスト表】Ⅰと同じである。但し記載したのは、番組番号(①)、伴奏音楽(⑦)、曲名(②)、小書・備考(③)、日時(④)、能楽界での扱い(⑨)の6項目に限定した。
- ・その他に主要演奏者として、上演時の立て唄と立て三味線の人名を記載した。
- ・同じ音曲を伴った演目内の順序は、番組のA1～E2の順に並べることとした。
- ・この表に於ける考察は本論第一部(第4章 第2節 演目の傾向研究 第2項 伴奏音楽の傾向)にて後述。

資料⑤-3

【演目リスト表 Ⅲ 三味線音楽を伴った演目リスト】

(演目 50 音順)

番組 番号	伴奏音楽	曲名	主要演奏者	小書 備考	日時	能楽界での 扱い
E1	長唄	吾妻風流	吉住小三郎 杵屋勝三郎	新作	M6/10/16	狂言風流
E1	長唄	安宅	長唄連中	新作	M6/10/16	能
D	長唄	安宅	長唄連中	かんじん帳	M6/9	能
A3	長唄	靱猿	坂田仙八 杵屋勝太郎		M5/4/26	狂言
A4	長唄	靱猿	芳村孝十郎 杵屋和八	翻案	M5/5/11	狂言
A1	長唄	翁	吉住小三郎 杵屋勝三郎		M2/2/16	能
D	長唄	翁三番叟	長唄はやし惣出		M6/9	能〈翁〉 狂言 〈三番叟〉
A5	長唄	勸進帳	1 吉住小三郎 杵屋 勝三郎 2 坂田仙八 杵屋六三郎	新作 長唄カケ合	M5/6/6	能〈安宅〉 の小段名・ 小書
A10	長唄	勸進帳	長唄連中		M7/2/10	能〈安宅〉 の小段名・ 小書
A14	長唄	勸進帳	長唄連中		M8/5/11	能〈安宅〉 の小段名・ 小書
A1	長唄	勸進帳	芳村伊三郎 杵屋勝之助		M2/2/16	能〈安宅〉 の小段名・ 小書
A10	長唄	感陽宮	長唄連中	新作	M7/2/10	能
A14	長唄	感陽宮	長唄連中		M8/5/11	能
A1	長唄	小鍛冶	坂田仙八 杵屋勝五郎		M2/2/16	能
A10	長唄	小鍛冶	長唄連中		M7/2/10	能
B2	長唄	石橋	長唄連中 杵屋勝三郎	連獅子	M7/7/16	能
A4	長唄	執着獅子	芳村孝十郎 杵屋正次郎	新作	M5/5/11	
A13	長唄	対面曾我	長唄連中 杵屋勝三郎		M8/1/21	

A4	長唄	鶴亀	坂田仙八 杵屋勝五郎	新作	M5/5/11	能
E1	長唄	鶴亀	坂田仙八 杵屋勝五郎		M6/10/16	能
A10	長唄	鶴亀	坂田仙八 杵屋東蔵		M7/2/10	能
A10	長唄	道成寺	坂田仙八 杵屋勝三郎		M7/2/10	能
A14	長唄	道成寺	芳村伊三郎 杵屋勝三郎	白拍子舞	M8/5/11	能
B2	長唄	二人椀久	長唄連中		M7/7/16	
A10	長唄	船弁慶	長唄 連中		M7/2/10	能
A3	長唄	船弁慶	吉住小三郎 杵屋勝三郎	替の伝 舟唄 友綱ノ伝	M5/4/26	能
A5	長唄	枕獅子	長唄連中		M5/6/6	
A1	長唄	三つ巴	芳村伊三郎 杵屋東蔵	獅子 乱曲	M2/2/16	
D	長唄	連獅子	長唄連中	ボタンの くるゐ	M6/9	能〈石橋〉 の小書
A13	二弦琴 と長唄	月宮殿	長唄連中 二弦琴(藤舎芦船)	二弦琴入	M8/1/21	能
A14	一中節 と長唄	記念曾我	一中) 宇治倭文 宇治紫文 長唄) 坂田仙八 杵屋勝三郎	新作討入	M8/5/11	
E2	一中節 菅野派	大江山	菅野序遊 菅野不三	新作 童子対面	M6/10/21	能
A10	一中節 菅野派	大江山	菅野序遊 菅野不三	新作	M7/2/10	能
A10	一中節 宇治派	七騎落	宇治紫文 宇治倭文	新作	M7/2/10	能
E2	一中節 菅野派	鉢の木	菅野連中	新作	M6/10/21	能〈鉢木〉
A14	一中節 菅野派	双子 隅田川	菅野序遊 菅野不三	新作 天狗替衣	M8/5/11	能〈隅田川〉
A13	一中節 宇治派	望月	宇治紫文 宇治倭文	新作	M8/1/21	能
E2	一中節 菅野派	紅葉狩	菅野連中	新作	M6/10/21	能

A10	清元節	老松	清元菊寿太夫 清元寿兵衛	新作	M7/2/10	能
A1	清元節	梢の錦	清元菊寿太夫 清元寿兵衛		M2/2/16	
D	清元節	木ずへの錦	清元延寿太夫 清元寿兵衛	高尾の古言	M6/9	
A3	清元節	隅田川	清元菊寿太夫 清元彦次郎 (清元小梅 清元梅吉)	新作	M5/4/26	能
A10	清元節	隅田川	清元菊寿太夫 清元彦次郎 (清元梅次郎 清元徳次郎)	新作 乗合船	M7/2/10	能
B2	清元節	隅田川	清元菊寿太夫 清元寿兵衛 (清元梅吉 清元里寿郎)	新作 乗合船	M7/7/16	能
D	清元節	松風	清元延寿太夫 清元寿兵衛	はまの うら波	M6/9	能
A10	三曲	葵上	中能島松声 山津宗賀 平岡東子	新作 三曲入	M7/2/10	能
A15	山田流 箏曲	桜 狩	中能島 山登萬和 山登松齡		不明	能
A15	山田流 箏曲	松竹梅	中能島 山登萬和 山登松齡		不明	
A15	山田流 箏曲	松風	中能島 山登萬和 山登松齡		不明	能(箏曲と 内容は別)
D	常磐津節	土ぐも	常磐津小文字太夫 常磐津文字兵衛	糸の あやとり	M6/9	能 〈土蜘蛛〉
A10	常磐津節	宗清	常磐津松尾大夫 常磐津文字兵衛	新作	M7/2/10	
D	常磐津節	望月	常磐津小文字太夫 常磐津文字兵衛	宿やの あだ討	M6/9	能
A10	常磐津節	望月	常磐津吾妻大夫 常磐津九蔵	新作	M7/2/10	能
A15	富本節	妹之宿	富本豊前掾 富本音羽大夫	新曲	不明	
A14	富本節	高野山	富本實珠翁 名見崎得寿斎	新作	M8/5/11	
A10	富本節	関寺小町	富本實珠翁 名見崎得寿斎	新作	M7/2/10	能
A10	富本節	高尾	富本實珠翁 名見崎得寿斎	新作 船ノ場	M7/2/10	

A15	山田流 箏曲と 富本	花川戸身替 ノ段	富本豊前掾 富本音羽大夫 (上調子) 中能島	お志ゆん 伝兵衛	不明	
A15	山田流 箏曲と 富本	春夜障子梅	富本豊前掾 富本豊後大夫 (上調子) 中能島	夕きり 伊左衛門	不明	
E2	荻江節	板開	荻江連中	新作 吾妻の寿	M6/10/21	

資料⑤－４ {第 1 部 第 4 章}

【演目リスト表 IV 新作の曲目】

- ・本表は【演目リスト】Iより演目に“新作”または“新曲”と備考のある演目について抜き出してまとめた物である。
- ・演目の順序は基本的に五十音順である。
- ・表の凡例は【演目リスト表】Iと同じである。但し記載したのは、番組番号(①)、曲名(②)小書・備考(③)、日時(④)、伴奏音楽(三味線音楽)(⑦)の5項目に限定した。
- ・この表に於ける考察は本論第一部(第4章 第3節 “新作”とつく演目の傾向)にて後述。

資料⑤-4【演目リスト IV 新作の曲目】（演目 50 音順）

番組 番号	曲名	小書・備考	日時	伴奏音楽 (三味線音楽)
A10	葵上	新作 三曲入	M7/2/10	三曲
A9	葵上	新作 梓ノ出	M6/6/3	
A11	朝妻船	新作	M7/11/26	
A9	朝妻船	新作 白拍子舞	M6/6/3	
E1	安宅	新作	M6/10/16	長唄
E1	吾妻風流	新作	M6/10/16	長唄
A8	一休	新作	M6/2/16	
A15	妹が宿	新曲	不明	富本節
A9	烏帽子折	新作	M6/6/3	
A10	老松	新作	M7/2/10	清元節
A10	大江山	新作	M7/2/10	一中節（菅野派）
E2	大江山	新作 童子対面	M6/10/21	一中節（菅野派）
A5	勸進帳	新作 長唄カケ合	M5/6/6	立て分かれ形式の長唄
A10	感陽宮	新作	M7/2/10	長唄
A14	記念曾我	新作 討入	M8/5/11	一中節（宇治派）と長唄
A9	月宮殿	新作 今様舞入	M6/6/3	
A14	高野山	新作	M8/5/11	富本節
A13	猿賀	新曲	M8/1/21	
A10	七騎落	新作	M7/2/10	一中節（宇治派）
A4	執着獅子	新作	M5/5/11	長唄
A9	執着獅子	新作 今様蝶狂	M6/6/3	
A9	水滸伝	新作 白虎ノ狂 武松	M6/6/3	
A3	隅田川	新作	M5/4/26	清元節
A10	隅田川	新作 乗合船	M7/2/10	清元
A10	関寺小町	新作	M7/2/10	富本節
A7	曾我対面	新作	M6/1/26	
A10	高尾	新作 船ノ場	M7/2/10	富本節
A9	高尾	新作 上下長愛	M6/6/3	
A8	土蜘蛛	新作 廓問答	M6/2/16	
A4	鶴亀	新作	M5/5/11	長唄
A9	橋弁慶	新作	M6/6/3	

E2	鉢の木	新作	M6/10/21	一中節 (菅野派)
A14	双子隅田川	新作 天狗替衣	M8/5/11	一中節 (菅野派)
A7	芳流閣	新作 八犬伝	M6/1/26	
A10	宗清	新作	M7/2/10	常磐津節
A10	望月	新作	M7/2/10	常磐津節
A13	望月	新作	M8/1/21	一中節 (宇治派)
E2	紅葉狩	新作	M6/10/21	一中節 (宇治派)
E1	柱建	新作	M6/10/16	
E2	板開	新作 吾妻の寿	M6/10/21	荻江節
A11	輪回車	新作	M7/11/26	
E1	八笑人嘶競	新作	M6/10/16	